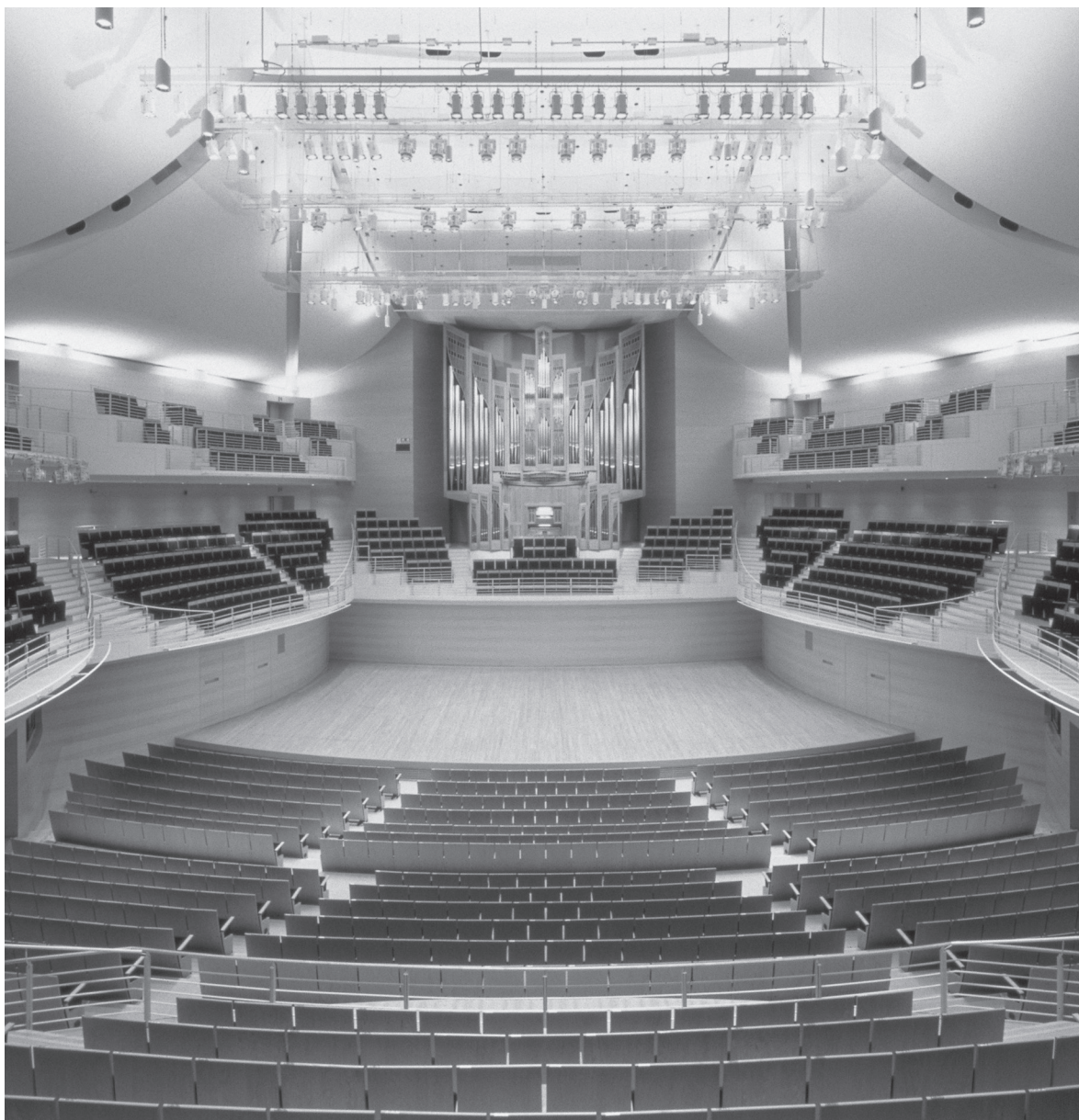


すいそうかく



一般社団法人 全日本吹奏楽連盟会報 2025.7 No.228



りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

2025年度定時総会



理事長所信

石津谷 治法

まず所信を述べます前に、皆様にお詫びを申し上げます。昨年の全日本吹奏楽コンクール高等学校の部におきまして、審査結果を誤って発表してしまいました。この件につきましては、関係者の皆様方に、理事長として心よりお詫び申し上げます。本当に申し訳ありませんでした。

それでは所信を述べさせていただきます。

大自然に恵まれた北の大地、北海道の中心地札幌に、全国各地からお集まりいただき、2025年度の定時総会が開催できますことをたいへん嬉しく思います。

さて、昨年も述べました少子化をはじめとする数々の社会問題は、加速度を増しており、憂慮されるところです。

少子化について申しあげますと、2024年の出生数が72万988人と発表され、9年連続で過去最少になりました。

少子化の大きなうねりの中で、我々吹奏楽連盟はこれらに対処すべく、発想の転換を図り、「待ったなし」の改革を断行すべきと考えます。

実は、人口減や財政難、人材確保といった社会問題は、現在だけではなく、過去の歴史においても起こっておりました。今、我々は歴史から学ぶことも大切であると感じています。

大学で日本史を学んだ石津谷として、ここに一例を述べさせていただきます。

石津谷が最も尊敬する歴史上の人物が、江戸時代の名君中の名君、米沢藩第9代藩主の上杉鷹山公です。鷹山公が藩主になった時の米沢藩の財政は、絶望的な状況で、領地を幕府に返上しなければならない程に悪化をしていました。こうした中でも鷹山公はあきらめることなく、国の未来を見据えた様々な改革を次から次へと断行し、彼の死の翌年、米沢藩は全ての借財を返済し、さらに米や麦を貯蔵するまでになったのです。

ここで、すべての改革を紹介することはできませんが、彼の実績のベースにあるのが「出るを制し、入るを図る」。健全な経済運営を図るための基本的ルールを徹底したことがあげられます。そして、民の生活の安定を第一に考え、今で言う「子ども手当」等を施し、苦しい財政の中でも、学校をつくり優秀な人材の育成を図りました。

これらを現在の全日本吹奏楽連盟に置き換えてみると、いかに連盟の支出を抑え収入を増やして行くかが、カギになってきます。ただ、値上げだけで対処するのではなく、収入を増やす手立てを模索し、無駄をいかにして減らしていくかがポイントになります。

また、子ども達や楽器愛好者、指導者の皆さんが、夢を持ち、安心して吹奏楽活動に取り組めるような主催事業の在り方や連盟組織の見直しを図っていくことも大切です。

そして、何より現在、国が推し進めている

「部活動の地域展開」にかかせない人材の確保を大学部門の改革等の中で果たして行くことが重要であると捉えています。

それでは、まず理事会で決議された事項についてご報告いたします。

昨年より再開したテーマ別分科会を本年度も実施いたしました。本年度は傍聴希望者の皆様方にも参加していただき、課題の共有を図りました。協議会の中で、テーマごとに報告をし、全ての皆様と意見交換・交流が持てますことを心より期待しております。

次に、「小学生バンドフェスティバル」において、1つの団体がステージ部門とフロア部門の両方にエントリーできるようにいたしました。現在、小学生の吹奏楽活動は縮小化の一途をたどり、憂慮すべき状況に陥っています。小学生の吹奏楽活動は我々連盟の根底をなすもので、絶対に衰退させる訳にはいきません。底辺がゆらげば、その影響は中学生、高校生、大学、職場・一般へと負の連鎖となり、悪影響を及ぼしかねません。小学生は連盟の礎であり、連盟の未来を築いてくれる宝なのです。小学生の活動を守ることが連盟の使命であると考えます。

昨年よりスタートしました大型打楽器の貸し出しも、子ども達への経済的な負担軽減を図る上で、本年度も継続することといたします。

これらの改革が、少しでも小学生の活動の一助になることを願っております。

また、本年度より、職場・一般の部の前後半入れ替え制を導入いたします。これにより一人でも多くのお客様に、質の高い職場・一般の部の演奏をお聴きいただく機会を増やせると同時に、チケット収入の増収により、財政を安定化させたいとも考えています。

次に、現在、全日本として検討中の取り組みをご説明いたします。

(1)高等学校の部と大学の部の早急な改革。

2月に政府は「高等学校の授業料の無償化」

を打ち出しました。このことは今後、公立高校の生徒減を招く恐れがあり、部員数減少による小編成バンドの急激な増加が危惧されます。

その対策として、昨年度からスタートしました中学校の合同バンドの出場承認を、高等学校にも2026年度より適用いたします。ご準備をお願いいたします。

さて大学の部ですが、いずれは少子化の波に飲み込まれます。そうなれば、大学の活動の存続も危うくなってきます。そこで、大学の加盟条件の緩和、すなわち同一大学内にあり、異なる活動を行う複数の吹奏楽サークルの加盟を認め、併せて少人数により、活動の幅がせばまっている大学同士の合同バンドを認めるべく現在検討を進めているところです。

これらの改革の中から、少しでも多くの大学生が、将来教師や吹奏楽指導員を目指し、吹奏楽界の新たな担い手になってくれることを願っています。

(2)財政安定化に向けた支出減方策の検討。

一例として、課題曲のダウンロード販売について検討を開始しました。しかし、クリアすべき課題も多く、すぐに実施とは行かない状況ですが、会議資料を含め、紙ベースから電子データへの移行を実施しなければならないと考えています。

(3)メディアの有効活用。

少子化の中で、吹奏楽の面白さや楽しさを多くの方々に知っていただくためには、メディアの有効活用が不可欠であると考えております。地上波放送やCS放送等を通じて吹奏楽を一般の方々に知っていただく良い機会であると捉えています。

また、過日、大阪・関西万博大屋根リングにて行われました12,000名を超えるマーチング演奏が、見事ギネス世界記録に認定されたその模様は、NHKやテレビ朝日系列によるニュース放映、朝日新聞・読売新聞等によって全国に発信されました。多くの国民が吹奏楽の醍醐味を知

るたいへん良い機会であったと思います。

さらに、地方大会・全国大会の関連記事を各地方の新聞社にも掲載していただけるよう働きかけることも大切であると考えています。そのための取材ルール徹底のために「取材ガイドライン」の作成を急ぎたいと思います。

メディアの活用は全国の正会員連盟・支部連盟の協力も不可欠です。何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

さて、続きまして私自身が感じております吹奏楽の未来に向けた経営戦略について述べさせていただきます。

(1) 吹奏楽連盟内部の組織改革について。

想定を上回る勢いで変化する時代の流れに対し、スピーディーな対応を取るために、新たな部署の設置等、全日本吹連内の組織の在り方を検討し、提案していきたいと考えています。

(2) 幼稚園児、未就学児等に対するPR活動。

少子化により、文化系団体は言うに及ばずスポーツ競技団体も競技人口の確保に頭を悩ませているところです。複数の競技連盟では、早い時期からの競技人口確保のため、いまや小学生ではなく、幼稚園児に目を向けているとお話を聞きました。

我々も音楽の面白さ、楽器演奏の楽しさを早い時期から子ども達にPRしていく必要性があると思います。

東関東支部では少子化対策の一環として、連盟への加盟・非加盟を問わず、幼稚園・保育園児に対するコンサートを実施した場合、補助金を支給し、楽器人口の底辺拡大に努めておられます。今後は、加盟団体のみならず、地域社会の中で活動されている音楽団体の協力も得つつ、吹奏楽界全体でこの問題に取り組んで行かねばならないと強く感じています。

支部・正会員連盟におかれましても「未就学児のためのコンサート」等の開催、将来の吹奏楽界発展のためのアピール戦略を共にお考えいただければ幸いです。

(3) 地域展開における子ども達の受け皿作り。

「部活動の地域展開」には、子ども達の受け皿作りが必要です。この問題に大きく関係してることとして、一般団体の充実があげられます。

九州支部では各正会員連盟に加盟する一般団体の皆さんが一堂に会し、九州シティバンドフェスティバルを開催されています。各団体の交流が図られ、活動が一層活性化していることが実感されました。九州支部の取り組みを手本として、子ども達の受け皿となる一般団体の在り方を、皆様と考えていきたいと思っています。

最後に、先に述べました上杉鷹山公が現代の我々に残した有名な言葉をご紹介します。

「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」

今、我々はこの言葉のように、様々な課題解決のための行動を起こさなければならない時が来ているのではないのでしょうか。吹奏楽を愛する者として、子ども達や楽器愛好者のために共に吹奏楽界を守り抜きましょう！

今回の総会が、多くの皆様の心に、改革への炎を灯してくれるであろうと信じつつ所信とさせていただきます。

総務報告

副理事長 鈴木 芳 夫

2024年度の総務・開発についてご報告いたします。

まず、加盟団体数は、2023年度に比べ、全体で122団体の減となり、合計は13,239団体です。小学生、中学生、高等学校での減少が大きく、大学、職場、一般部門の増減はほぼ横ばいでした。少子化、学校の統廃合、部活動の地域展開による影響が大きいものと考えられます。維持会員数は39社です。維持会員の皆様の変わらぬご支援ご協力に感謝申し上げます。

加盟団体数の推移

(2025年1月30日現在)

	小学生	中学生	高等学校	大学	職場	一般	合 計
2023年	840	7,086	3,616	281	66	1,472	13,361
2024年	803	7,061	3,558	278	66	1,473	13,239

次に、会議関係でございます。定時総会は、リーガロイヤルホテル広島で行いました。また、役員の選挙を行い新しい理事1名と監事1名が決まりました。

理事会は対面とウェブにより10回行いました。定時総会・理事会以外に、常任理事会は対面とウェブにより8回、支部理事長会は対面で3回、三役会、各部会、専門委員会、支部事務局長会は対面を中心にウェブも用いながら行いました。また、調査・研究に関して「審査に関する専門委員会」と「課題曲に関する専門委員会」を開催しております。

なお、私たち理事は、この一年間も二度と不祥事を起こしてはならないとの一致結束した強い気持ちで、5年前に第三者委員会からいただいた報告を尊重し、顧問弁護士・顧問税理士・社会保険労務士・弁護士公認不正検査士の皆様のご指導・ご助言に基づき、事業の推進と会議の充実を目指してまいりました。そのため、すべての事業において理事全員で分担・担当し業務を遂行しました。また、事務局業務につつま

しても事務局に関する規定の整備を進め、連盟運営全般の改善に努めてまいりました。

次に、広報関係でございます。会報「すいそうがく」と「全日吹連だより」を各3回発行しました。ホームページは、広い世代の方に親しみを持っていただけるよう、閲覧している方の年齢層や閲覧の方法などの分析に努め、更新を続けているところでございます。また、課題曲の特徴的な部分を1分にまとめた「課題曲ダイジェスト版」をYouTubeで公開したり、大会結果発表や情報の提供にX（旧 Twitter）を使ったりし、SNSを利用した広報活動も継続して行っております。

資料集といたしましては、2024年度版規程集を発行いたしました。

次に、運営補助金として、支部へ70万円、会員連盟へ15万円の助成を行いました。

出版関係でございますが、2024年度に決定した公募作品2曲と後藤洋氏と大島ミチル氏に委嘱した作品とを合わせて、2025年度吹奏楽コンクール課題曲4曲の楽譜、参考演奏CD・DVDを2月より販売いたしました。

その他の出版関係では、2023年度の課題曲は12月まで販売いたしました。2024年度課題曲の楽譜、参考演奏CD・ビデオ・DVD、全国大会ライブCD（I集からVI集）、オリジナル楽譜、80年史を引き続き販売して参りました。併せて、資料センターにつきましては、楽譜・図書・CD・ビデオ・DVD等の活用や収集を行っております。

また、各種オリジナルグッズの販売を行いました。

以上、総務・開発についてのご報告でございます。

事業報告

副理事長 町 田 真左志

2024年度の事業全般についてご報告いたします。

第72回全日本吹奏楽コンクールは、10月19日（土）に中学生の部を、翌20日（日）に高等学校の部を「宇都宮市文化会館」で開催いたしました。この大会では、全体を4つのブロックに分けて観客の入替を行い、多くの皆様にご観覧いただくことができました。更に、名古屋開催と同程度の収益を得ることができました。運営につきましては東関東吹奏楽連盟、とりわけ栃木県吹奏楽連盟の皆様にご大変お世話になりました。ありがとうございました。

大学の部は10月26日（土）に、職場・一般の部は翌27日（日）に「札幌コンサートホールKitara」で開催いたしました。

また、**第43回全日本小学生バンドフェスティバル**は、今回の大会よりステージパフォーマンス部門とマーチング部門の2つの部門での分割開催となりました。

ステージパフォーマンス部門は、10月26日（土）に「札幌コンサートホールKitara」で開催いたしました。同会場で開催いたしました吹奏楽コンクール大学の部、職場・一般の部および小学生バンドフェスティバルでは大型打楽器の貸出しを実施したところ、多くの団体にご利用いただきました。運営につきましては北海道吹奏楽連盟、とりわけ札幌地区吹奏楽連盟の皆様にご大変お世話になりました。ありがとうございました。

第43回全日本小学生バンドフェスティバルマーチング部門および**第37回全日本マーチングコンテスト**中学生の部を11月16日（土）に、翌17日（日）に高等学校以上の部を「大阪城ホール」で開催いたしました。運営につきましては関西吹奏楽連盟、とりわけ大阪府吹奏楽連盟の皆様にご大変お世話になりました。ありがとうございました。**マーチングコンテスト**は、中学生の部で25団体から32団体に、高等学校以上の部で25団体から36団体に出場団体数を増やしました。また、今回の大会からリハーサルを1日に

集約して実施し、主管連盟の負担軽減に一定の成果が得られたと考えております。

第48回全日本アンサンブルコンテストを2025年3月20日（春分の日・木）に「福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい」で開催いたしました。運営につきましては北陸吹奏楽連盟、とりわけ福井県吹奏楽連盟の皆様にご大変お世話になりました。ありがとうございました。

これらの事業はライブ配信を行い、多くの皆様にご視聴頂きました。

また、2024年度の大会から審査方法を一部変更いたしました。審査員からいただいた意見を参考に、より良い方法を目指して検証・検討を進めております。

各大会会場において、全日本吹奏楽連盟オリジナルグッズの販売を行いました。例年販売しております記念バッジ、吹連バッジに加えて、オリジナルメダルチョコレート、クリアファイル、マスキングテープの5点です。チョコレートに関しましては、想定以上の在庫を抱える結果となり、多くの皆様にご迷惑をおかけする事となってしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今年度も引き続きオリジナルグッズの販売を行いますが、前年度の反省を生かして参りたいと考えております。

以上、2024年度の事業についてご報告いたしました。

会議報告

定時総会

5月23日（金） プレミアホテルTSUBAKI札幌

感謝状・表彰状贈呈

感謝状

大井貴裕（帯広）、川名孝夫（茨城）、早川英一（熊本）

表彰状

金崎史典、高橋 聡（函館）、鈴木勝也、中村紳一、三浦徹也（日胆）、桑島 誠（空知）、友定明博（北見）、椎谷太一（留萌）、田中邦裕（福島）、青柳秀昭、鈴木由美子（新潟）、鎌野正人（兵庫）、小原敏彦（岡山）、秋月優希、和泉康洋（徳島）、穴本浩二、友永 亮、野村アイ子、宮邊勇一（大分）

理事長所信（別掲参照）

議長選出 大咲司朗（広島）、田中義啓（札幌）の2氏を選出し、議事に入った。

報告事項

報告事項1 第52事業（2024）年度の事業報告内容の件

総務全般について鈴木副理事長、事業全般について町田副理事長より報告・説明された（別掲参照）。

報告事項2 第52事業（2024）年度の公益目的支出計画実施報告書の内容報告の件

公益目的支出計画実施報告書について、鈴木副理事長より、計画通りに実施している旨報告・説明された（単位は千円）。

2024年度末残額 50,495

報告事項3 第53事業（2025）年度の事業計画及び収支予算書の内容報告の件

担当常任理事から下記のように報告された。

総務部（櫻井常任理事）

(1) 会議

定時総会、理事会（7回）、常任理事会（8回）、支部理事長会（3回）、支部事務局長会、三役会、部会・専門委員会

(2) 広報

①会報「すいそうがく」は、7・12・1月に発行し、加盟団体の代表者へ送付する。

②「全日吹連だより」は、4・7・12月に支部・会員連盟（府県・北海道の地区・東京の部門）へ送付する。

③「ホームページ」を中心に随時情報を公開する。

(3) 資料集等の制作

規程集

(4) 支部・会員連盟への助成

運営補助金（支部へ70万円・会員連盟へ15万円）

(5) 会費

正会員会費（加盟団体1団体あたり）500円

維持会員会費（1口）7万円

(6) 記念グッズの販売

開発・振興部（一瀬常任理事）

(1) 2026年度課題曲の作曲公募について

2024年度末から公募を行い、2025年6月に決定予定。

(2) 2026年度課題曲の出版

2026年2月末から、楽譜、参考演奏CD・DVDを出版・販売する。

(3) 過去課題曲等の販売について

2024年度課題曲は2025年12月末までの販売。

(4) その他

オリジナル作品、連盟80年史等を引き続き販売。

2027年度課題曲公募から「9月末に募集要項発表、来年1月に作品募集」と公募スケジュールを前倒しする予定（第2次審査以降のスケジュールは従来通り）。

第一事業部（星常任理事）

吹奏楽コンクールの日程・会場、代表数等は別掲のとおり。2025年度の中高コンクール全国大会は名古屋国際会議場の工事に伴い、宇都宮市文化会館で開催する旨、会場のキャパシティの事情により昨年同様、前半の部・後半の部をそれぞれ2ブロックに分け、全体として4ブロックで開催し、ブロックごとの客席入替を行なう旨説明があった。また、少子化の影響により、高等学校の部における合同バンドの参加を2026年度より認めることとする旨、地域バンドの参加については見送りとする旨報告があった。

第三事業部（安藤常任理事）

小学生バンドフェスティバルとマーチングコンテストの日程・会場、代表数等は別掲のとおり。小学生バンドフェスティバルの部門名を「ステージ部門」および「フロア部門」と改め、昨年度に続き分割開催となる旨報告された。また、マーチングコンテスト高等学校以上の部においても、コンクールと同様2026年度より高等学校の合同バンドの参加を認める旨報告があった。

第二事業部（井田常任理事）

アンサンブルコンテストの日程・会場、代表数等は別掲のとおり。また、今年度より、中学生の部・高等学校の部の演奏順を隔年で交代する旨、今年度は中学生の部よりスタートする旨報告があった。なお、アンサンブルコンテスト高等学校の部においても、コンクール・マーチングコンテストと同様2026年度より高等学校の合同バンドの参加を認める旨報告があった。

財務部（竹田常任理事）

収支予算書について、報告説明があった。(1) 予算編成にあたっては、地域展開に伴う加盟団体数減、部員減少によるA部門への参加減、維持会員の減少等を基本方針として考慮した。(2) 昨年同様、全日吹連主催の大会の内、吹奏楽コンクール、小学生バンドフェスティバル、マーチングコンテストの参加料を徴収する。(3) 2025年度より課題曲楽譜を値上げした。(4) 昨年同様、小学生バンドフェスティバルの分割開催に伴い、別事業との併設開催、それに伴うマーチングの出場団体数増などを考慮した。(5) 会議については、リモートも適切に取り入れ、対面の回数を制限し、経費削減に努めていく。(6) 正職員1名増となった事務局職員の定期昇給、繁忙期のアルバイトに備え、人件費を増額した。

概要は次のとおり（単位は千円）。

収入合計額 291,356

内訳

財産収入 11、会費収入9,700、事業収入268,280、補助金・協賛金収入13,365

支出合計額 279,764

内訳

事業費152,770、管理費 109,994、支部・会員連盟運営補助金17,000

議 事

第1号議案 第52事業（2024）年度の計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）の承認の件

第52事業年度の計算書類について竹田常任理事より提案・説明がされた。2024年度は、コンクール、小学生バンドフェスティバル、マーチングコンテストで参加料を徴収し、コンクール中高ではブロックごとの入替制に、マーチングコンテストでは前後半入替制導入と参加団体数を増やしたことで、収入増に繋がった。課題曲楽譜販売は、加盟団体数減、全国大会へ繋がるA部門参加減等の影響が考えられたが、値上げをしたため増収となった。著作権使用料収入は2023年度にコンクール府県大会・支部大会と演奏会などで演奏された分がJASRACを経由して収められるが、ライブ配信分と合わせて昨年度より減収となった。オリジナルグッズを新たに開発し販売したが、特にチョコレートは売り上げ目標を達成できず、製造原価をカバーしきれなかった。費用について、小学生バンドフェスティバルの分割開催に伴い、経費が増加した。2023年度はすべての大会を計画通り実施できたことや、前顧問税理士からの和解金も入り、収益増となったため、2024年度の租税公課が増額となった。連盟所有ビルをリニューアルしたため、修繕費がかかったが、現在入居がないため賃貸料収入が止まっている。前事務局次長との和解金、前事務局長からの受取賠償金は、経常外収益として計上している。

次に、河田監事より監査報告があり、承認された。概要は次のとおり（単位は千円）。

収入合計額 316,174

内訳

財産収入 61、会費収入9,960、事業収入292,778、補助金・協賛金収入 13,375

支出合計額 283,968

内訳

事業費154,863、管理費 112,105、支部・会員連盟運営補助金17,000

第2号議案 役員（理事1名、監事1名）選任の件

令和7年5月23日の定時総会締結時をもって理事佐藤実千秋（朝日新聞社）の辞任、その他理事全員および監事湯川昌彦が任期満了になる

のに伴い「役員選挙に関する規定」に基づき11支部から候補者が選出され、選挙管理委員会より提出された原案の候補者個々について賛否投票を行なった。結果、原案の全員が賛成多数にて承認可決された。

理事 井田重芳、田中義啓（北海道支部）、鈴木芳夫、土川春生（東北支部）、星 弘敏、石津谷治法（東関東支部）、一瀬純司、奥 章（西関東支部）、中澤正人、加島貞夫（東京都支部）、安藤繁秋、町田真左志（東海支部）、田中一宏（北陸支部）、磯部将門、米田正博（関西支部）、佐藤道郎、竹田大助（中国支部）、松浦孝憲（四国支部）、八尋清繁、櫻井和也（九州支部）、佐々木 健（朝日新聞社）

監事 湯川昌彦（関西支部）

なお、定時総会に続く理事会（新任理事互選会議）で、石津谷治法が理事長に選任された。副理事長については理事長一任、常任理事については三役一任とすることを決定した。

協議会

●能登半島地震についての報告

北村善哉北陸支部理事長、田中一宏石川県正会員より、能登半島地震についての報告があった。

●裁判について

顧問弁護士の名川・岡村法律事務所 鈴木勝利弁護士、池田千絵弁護士より裁判および損害賠償金の回収について報告された。

【裁判について】

・当連盟は、令和2年3月19日、前事務局長、前事務局次長及び元監事を被告として、東京地方裁判所に損害賠償請求訴訟を提起し、審理がなされた。

・この第一審において元監事との間で和解が成立し、その後和解金が支払われた。

・前事務局長及び前事務局次長との間では、令和6年2月21日、当連盟全面勝訴の第一審判決が言い渡された。

・前事務局長及び前事務局次長はいずれも控訴し、東京高等裁判所で控訴審の審理がなされた。前事務局次長との間では、この控訴審において和解が成立し、その後和解金が支払われた。

・前事務局長との間では、令和6年9月26日、前事務局長の控訴を棄却する旨の控訴審判決が言い渡された。前事務局長は上告せず、第一審判決が確定した。

【損害賠償金の回収について】

・前事務局長に対しては、確定判決に基づき、手段を尽くして損害賠償金の回収を進めている。

●分科会報告（詳細はP.13～20参照）

【第1分科会：部活動の地域展開について】

部活動の地域転換展開ということで、様々な情報の交流がなされた。現在の進捗状況や問題について報告があり、活発な意見が交わされ、各11支部や地区、都道府県から現在の状況が話された。

【第2分科会：大学部門の活性化について】

大学部門について、活性化と学生からの指導者育成というテーマで、大きく3つのことについて、各連盟の現状報告や、意見交換を行った。

【第3分科会：著作権について】

出版社より講師を招き、著作権楽譜利用に関する講義を受け、課題を共有した。

【第4分科会：今後の吹奏楽連盟の活動について】

今後の吹奏楽連盟の活動をテーマに、出席者37名を10グループに分け、付箋を活用したブレインストーミングの手法によるグループ討議を行った。

●「未来志向の吹奏楽の連携と協働～持続可能な吹奏楽活動へ～」について

・中学生部門、高等学校部門のコンクールに関して

少子化が急速に進んでいることは、どの県でも共通意識を持っていることと思うが、それに伴い、編成に参加する数、昨今減ってきているのが現状で、編成に向けて参加できるよう、訴えかけているところである。人数が少ないと50人、55人と同じ土俵で比べられるのは、躊躇してしまうという声も聞く。最近の参加人数を見ると50人・55人揃う団体は少ないと思う。そういう中で参加上限の人数を減らすような検討はされないか。

それからB編成のバンドが非常に多くなっているが、B編成の全国大会について今後も難しい

のかどうか、その見通し、展望等を聞かせてほしい。(静岡)

◇少子化の影響で吹奏楽人口の減少を危惧しているが、全日本吹奏楽コンクールにおいては、A編成B編成という区切りはない。課題曲と自由曲を演奏し、評価を得るという規定に現在ではなっている。小編成の全国大会については、大人数の団体が団員を削って参加する、あるいは入団制限などによって、バンドの規模を大きくせず参加するといった行為等が懸念される。また、小編成バンドへの対策として、昨年より中学生の部においては、合同バンドや地域バンドの参加を認めており、全日本レベルの大会の実施に関しては、現時点では議論されていない。次に少子化による吹奏楽を取り巻く環境は日々変化し、一刻も早い対応を考えなくてはならないと連盟も感じている。対応の1つとして、2023年より正会員連盟に協力いただき、コンクール参加団体の人数構成、合同バンドの参加、実績、地域バンドの実情などを詳細に報告してもらい、変化の実態把握に努めている。

本日、実態調査に基づく2024年度のコンクール参加団体の構成、人数状況グラフの資料を配布した。中学校では25人以下の団体が全体5111団体中の51%、高等学校では全体2574団体のうちの45%に及んでいることが分かる。

さらに、課題曲については、少人数バンドでも、音楽的表現に差が出ないような委嘱曲を策定することや、課題曲演奏における規定の緩和を実行してきた。将来的にこのような施策では対応ができなくなる可能性も否定できないが、参加人数の上限を減らすことに関しては、もう少し推移を見極めていきたいと考えている。【星（第一事業部長）】

●昨年度のアンサンブルコンテスト審査について
・アンサンブルコンテストの審査について、金賞の多さと銅賞の少なさに愕然と目を疑った。各審査員の持っているABCの数が大幅に変更された結果だと理解しているが、そこまでして金賞を多く出す目的は何なのか。その結果について、どのような総括をされているのか、また、今後元に戻す方向性はないのか。コンクール・マーチングでは行われなかったのに、なぜアンサンブルだけそのような配分にしたのか。(滋賀)

◇審査方法については、年度ごとおよび大会ごとに審査専門委員会と各事業部会を開催し、分析・総括を行っている。そのうえで、次年度に向けた審査配分の方針を作成している。また、審査員からの意見聴取も行い、毎年改善を図っている。審査配分はアンサンブルに限らず、吹奏楽コンクールなど全体に適用しており、演奏の内容に応じて、どのような評価がふさわしいかを毎年検討している。審査結果の傾向としては、ここ数年、Aをやや増やし、B・Cを減らす「左肩上がり」の傾斜配分を採用している。2023年度は特に中学校の部で金賞が非常に少なかったという反省から、2024年度に向けて審査配分を見直し、理事会でA・B・Cの比率を決定した結果、金賞が増加した。これは全体の演奏レベルの向上に対して、相応の評価を行った結果である。現在、2024年度の最終的な分析・総括は未完了であるが、現時点では金賞を減らし銀賞を増やすという方向には至っていない。ただし、今後1年をかけて再度シミュレーションと検討を行い、2025年度の配分については理事会で決定する予定である。演奏に対する評価は公平・厳正・適正であるべきであり、審査方法については今後も検証・改善を行っていく。【井田（第二事業部長）】

◇金賞の数を増やすよう各部会に提案しているのは私自身である。これまでの運用では、金賞がごく少数しか出ないケースもあり、審査員の多くが「本来Cを付けたくないが、配分上そうせざるを得ない」と感じていた。子どもたちの努力に見合った評価を与えるべきとの考えから、金賞の数は多い方が望ましいと判断している。特にアンサンブル部門では、マーチングやコンクールと比べて傾斜を大きくし、金賞を出しやすくしている。これは、フルート三重奏と打楽器八重奏のように編成が大きく異なる中で同一基準での評価が求められるという審査の難しさを踏まえた対応である。過去の傾向を見ても、アンサンブルでは金賞が出にくい状況があったと認識している。そのため、優れた演奏には相応の評価を与えるべきであるという観点から、金賞が出やすい審査配分を提案した。この方針の背景には、金賞を受賞した団体が地域に戻って中心的な存在となり、吹奏楽の普及と発展に貢献してほしいという願いもあり、単に金賞を取って終わりではなく、その後の役割と使命を果たしてほしいと考えている。ただし、今後の

運用の中で修正が加わる可能性もあり、審査方法そのものを見直す必要が出てくるかもしれない。その点を理解いただいたうえで、金賞が増えた背景にある意図もご理解いただければ幸いです。【石津谷理事長】

●吹奏楽の持続可能な発展に向けた組織基盤整備の提案

・現在、文化芸術活動の地域展開が国策として推進されており、吹奏楽も学校教育の枠を超え、地域ぐるみでの取り組みが求められている。その中で、任意団体としての運営では限界があり、法人格の取得が不可欠であると認識している。岡山県では、専門家や行政との協議を重ね、任意団体のままでは法的責任が個人に及ぶ可能性があること、公立教員も安心して関われないことを課題としてきた。今後は、地域クラブや行政と連携し、高い社会的信頼と安定性を持つ団体として、一般社団法人化を進める必要があると考えている。また、部活動と地域クラブの併存が続く中、教員の出張手続きや公務扱いの可否といった制度的な課題もあり、文部科学省や関係機関への制度整備の働きかけが必要である。さらに、今後は演奏指導だけでなく、安全管理・地域連携・コンプライアンスに配慮した指導者の質の担保が求められる。そのため、各都道府県連盟が自治体と連携し、指導者認定制度を整備すべきである。吹奏楽の持続的な発展には、法的・財政的に安定したガバナンス体制の構築が不可欠である。全日本には、各都道府県連盟の法人化支援、制度移行における行政との調整、統一的な方針策定にご尽力いただきたい。(岡山)

・奈良県は、令和5年4月に一般社団法人化を実施した。きっかけは、コロナ禍での持続化給付金申請が「任意団体」であるために認められなかったことにある。長年にわたり税務申告を行ってきたにもかかわらず、法人格がないことで行政支援を受けられなかった現実に強い課題意識を持ち、法人化を決断した。

法人化に際しては、定款作成など基本的な手続きは行政書士等の協力により比較的円滑に進められた。現在、法人化による不都合は一切なく、行政からの評価も高い。特に地域活動の受け皿組織としての信頼性向上や、地域移行の場面での対応力強化につながっている。実務面でも、銀行口座やクレジットカードの名義管理が簡素

化され、運営の安定性と効率が向上した。法人カードにより、支払い処理も迅速かつ柔軟に対応可能となっている。法人化から1年が経過し、決算も無事に終了しており、運営上の支障はなく、法人化によるメリットは極めて大きいと実感している。今後の地域展開を見据えても、法人化は有力な選択肢であると考えている。(奈良)

・茨城県は、令和3年度に一般社団法人化を行い、369の加盟団体を有する中で法人運営を行っている。法人化による主なメリットは以下の3点である。第一に、法人として契約の当事者になれる点が挙げられる。これにより、土地・建物・資産を法人名義で取得・登記できるほか、連盟名義での銀行口座開設が可能となり、代表者に万が一のことがあっても運営に支障をきたすリスクを回避できる。第二に、法人運営に伴う法的な規制(役員任期、登記義務、総会での議決要件など)を遵守することで、団体の社会的信用が向上する。第三に、個人が損害賠償責任を負うリスクが軽減される点がある。このほか、補助金や助成金を受けやすくなる、事故発生時にも事業継続がしやすいといった実務上の利点も確認されている。一方でデメリットとしては、設立時の登記費用や、役員変更のたびに発生する登記料が挙げられる。また、法人化によって運営における法的規制が増すため、任意団体と比較して柔軟性は低下するが、これは信用向上と引き換えの必要な措置であると考えている。(茨城)

・長野県における吹奏楽組織は、長野県吹連のもとに小学校～職場・一般までの各部門連盟が存在する構造となっている。県連盟が一般社団法人化した場合、傘下の各部門連盟は法人格を個別に取得する必要があるのか、また各部門で法人化を望む場合は、それぞれが独立して手続きを進めなければならないのかお聞きしたい。(長野)

・茨城県では、小中高などの校種別ではなく、東西南北および中央の地区ごとに下部組織が編成されている。県連盟が一般社団法人化した際には、これらの地区組織も含めた一体的な構成で行った。ただし、法人化にあたっては会計の一元化が必須条件のため、各地区には通帳が個別に存在するものの、財産はすべて「県連盟全

体の資産」として登記し、一本化された会計管理体制のもとで運営している。(茨城)

・岡山県では現在、県内の各単位吹連(中学校・高等学校など)を包括する形で、一般社団法人化を検討している。法人化後は、従来の各吹奏楽連盟の名称を維持しつつ、それらを一社内の「部会」として位置づける方針である。課題として、学校教育団体と社会教育団体の出張に関する制度上の扱いに違いがある点が挙げられており、学校教育とも深く関わる中間支援団体として、今後行政との協議を進めていく予定である。(岡山)

◇すでに法人化を実施している県の事例も参考にしながら、全日本としても今後、慎重に学びを深めていきたいと考えている。現時点で連盟として具体的な対応を取る段階ではないが、地域ごとの事情や規模の違いを踏まえつつ、引き続き検討を進めるための時間をいただきたい。【櫻井(総務部長)】

◇社団法人化は、時代の流れの中で有力な選択肢の一つであると認識している。ただし、全日本として、現時点で正会員や各支部に対して法人化を一律に推奨・要請する立場にはない。その理由として、各連盟の規模や財政状況が異なることに加え、自治体ごとの対応や理解にも大きな差がある点が挙げられる。特に、教員が関与する場合、社団法人が民間的性格を持つことによる身分上の扱いが課題となる場合もある。したがって、法人化を検討している連盟は自主的に学びを深めて進めていただきたい。一方で、時期尚早と考える連盟については、慎重に時間をかけて検討することも問題ない。現段階では、一斉に法人化を求めるような状況にはないと理解している。【石津谷理事長】

●小学生バンドフェスティバル ステージ部門における支部代表数の見直しについて

・ステージ部門とフロア部門のダブルエントリーおよび名称簡略化の件について、迅速な対応に感謝する。

現在、小フェス ステージ部門は、11支部×2の計22団体で実施されているが、各支部の参加団体数は4～69と大きな幅がある。支部ごとの割合も3%から50%と差が大きく、小学生部門の加盟状況や大会参加状況には地域差が見られる。

一方、フロア部門は15団体で実施されている。今後は、基礎数に加えて支部ごとの参加団体数を考慮した比例配分方式の導入を希望している。また、会場の固定化についても引き続き検討をお願いしたい。(鹿児島)

◇今後の開催に向けて、支部代表数の見直しを含む準備・検討を進めている。分割開催にあたって最大の課題となったのは、全国の正確な参加団体数の把握であった。各支部からの提出基準が統一されていなかったため、正確なデータが十分に収集できなかったことが背景にある。そのため、支部理事長会のアドバイスを受け、当面の対応として、現在の代表数を3年間の暫定措置とすることとした。この期間中に、正確な参加団体数データを集め、代表数の見直しを進めていく方針である。【安藤(第三事業部長)】

●部活動の地域展開について(第1分科会テーマ)

・奈良県では、地域展開における最大の課題は「場所の確保」であると認識している。特に学校の音楽室の使用については、安全管理や構造上の問題から制約が多く、地域クラブでの使用が難しいのが現状である。一部自治体では、理解のある市が音楽室専用の出入口を設けたり、スマートキーの導入など、簡易な改修工事を行っている例もあるが、こうした工事に対する国の補助制度は存在せず、全額自治体負担となっている。そのため、自治体の意向次第で地域展開の可否が左右されてしまう。また、中学生を対象とした地域クラブは、実質的に市民バンドと同等であり、場所や倉庫の確保は避けて通れない課題である。指導者や資金面の問題は工夫で対応可能な場合もあるが、場所・倉庫に関しては物理的制約と費用負担の問題が大きく立ち回っている。このような現状を踏まえ、吹奏楽の地域展開を本格的に推進するためには、施設改修に関わる費用に対し、国が補助を行う法的・制度的整備が必要であると考えている。国への政策的な働きかけを全日本として検討していただけないか。(奈良)

◇文部科学省による部活動の地域移行方針は令和4年に始まったが、自治体の準備不足や現場の混乱から進捗は鈍く、令和6年度より「地域展開」へと方針が転換された。令和8年度から13年度までの6年間をかけて段階的に展開を進め、前半3年では土日の活動を地域で担い、後

半3年で平日にも広げる計画となっている。全日本も文部科学省の会議に参加し、地域展開を進めるにあたり、資金・活動場所・指導者の3点が不可欠であることを強く主張してきた。

資金面では、令和6年度に国が計上した予算は約37億円にとどまり、全国的な実施には明らかに不足している。自治体によっては独自に対応を進めており、熊本市では兼職指導者の報酬を市が負担し、埼玉県ふじみ野市では大学との連携により人材の確保を図っている。活動場所の確保も大きな課題である。文部科学省は、学校施設の活用、認定クラブへの優先利用、ICTによる鍵管理、指定管理者制度の導入などを方針として示したが、これに対する国の直接的な財政支援は現時点では明示されていない。指導者の確保に関しても、当初は教員の兼職・兼業を原則認めないとする姿勢であったが、現在は希望する教職員の活用を容認する方向に転換されつつある。吹奏楽のように高い専門性を要する分野においては、経験を有する教員の関与が不可欠であると考えられる。制度の柔軟化は進みつつあるが、実際の運用は自治体の判断と支援体制に大きく依存する。今後も全日本として、現場の実情を踏まえた提言と国への働きかけを継続していく。【石津谷理事長】

◇ワーキングチームはこれまでに5回開催され、部活動の地域展開について協議が行われた。当初は「働き方改革」が主目的とされていたが、現在は「子どもたちの活動の場の保障」へと目的が転換された。会議を通じて、部活動の教育的意義が再認識され、次期学習指導要領では、地域クラブの普及とともに、地域展開が困難な場合の学校部活動の継続や、教職員の負担軽減についても記載される見通しである。また、学校施設の活用や設備改善についても、国と自治体が主体的に取り組むべきとの方針が明記されている。地域展開は令和8年度から6年間をかけて段階的に進められ、前半3年間は整備期間として指導者の育成、施設整備、財源の確保を重点的に進め、後半3年間で本格的な地域展開が実施される計画である。取りまとめ案にはこれらの方針が反映される予定であり、今後の重要な指針となると考えられる。【星（第一事業部長）】

・愛知県では昨年度より「人材バンク」制度を導入し、吹奏楽指導者の確保に取り組んできた。

県によれば、最も活用されているのは吹奏楽分野であり、実際に10名の募集に対して18名の応募があった例も報告されている。これを受け、県からは連盟による人材認定への期待が寄せられており、今後は講習修了などを基準とした独自認定の導入を検討している。また、愛知県吹連では地域バンド指導者向けのガイドブックを作成し、指導法から運営・コンプライアンスまでを網羅した内容をホームページで公開している。施設面では、豊田市が中学校のセキュリティ改修に2億円を投じるなど、外部利用を可能にする整備が進められているが、財政面の格差が課題である。現在、県教委主催の会議等で連盟が活動報告を行っており、自治体からの関心も高い。今後は音楽大学との連携や講習会の開催を通じて、地域展開に向けた指導者育成をさらに推進していく方針である。（愛知）

・愛知県では、地域クラブ設立後の財政負担を巡り、「最終的には受益者負担」との見解が多く、の市町で示されていたが、文部科学省の実行会議の最終取りまとめにおいて公的支援の必要性が明確に示されたことは、吹奏楽界にとって意義深い。吹奏楽部は2022年度の文部科学省調査でも中学生の部活動加入率第1位（約10.4%）と高い人気を誇るが、他部活動と比べ費用負担が大きいのが現状である。吹奏楽に対する公的支援の必要性について、今後も引き続きご尽力を賜りたい。（愛知）

・文部科学大臣が保護者負担額の目安をこの夏に示す方針であり、また現在国会で審議中の給特法改正案の附則には、地域における部活動展開の円滑化のために財政的援助を行う旨が明記されている。これらはすべての部活動を対象としたものであるが、吹奏楽は特に地域展開が困難であり、より手厚い支援が必要と考えられる。実際には、先進的に進んでいる自治体とそうでない地域との格差が拡大している。特に場所や倉庫といった物理的課題は深刻であり、全国一律の明確な支援方針がなければ改善は困難である。吹奏楽においては、特別な事情に即した根拠を整理し、財政支援や環境整備が進むよう、国への働きかけを強めていく必要がある。（奈良）

◇令和7年7月から8月にかけて、部活動の地域展開および地域クラブ活動の推進に向けた「産

学官・学校連携フォーラム（仮称）」の開催が都内で予定されている。パネルディスカッションや事例発表、マッチングフェアなどが企画されており、参加の上、現場からの要望も伝える意向である。8月には、令和8年度概算要求とともに、地域クラブ活動の定義や要件、受益者負担額の目安が文部科学省より提示される予定である。有識者による事前協議が行われるが、提示される金額は自治体負担との兼ね合いもあり、ある程度の金銭的負担が発生することが見込まれる。さらに、令和7年冬には地域展開に対応した新たなガイドラインが策定される見込みであり、現行の部活動指針とは別に、地域クラブ向けの指針が示されるとされている。これらの動向については、随時連盟としても情報提供を行っていく所存である。【石津谷理事長】

●現行の課題曲の楽譜販売について

・パート譜の部数に偏りがあることや、ペーパーレス化している状況を踏まえ、ダウンロード販売方式への移行を提案する。各団体が必要な部数のみを印刷し使用する形式とすれば、印刷・発送コストの削減にもつながる。違法コピーの懸念については、演奏承諾書を導入し、それを提出した団体のみがコンクールに参加できる仕組みにすることで対処可能と考えられる。また、課題曲に限らず、市販の一般楽譜についても同様にダウンロード販売を進めるべきであり、証明書提出を要件とする運用に変更すれば、出版側・演奏側双方にとって有益な制度となると考えられる。（東海）

◇課題曲のパート譜枚数については、2管編成を踏まえ、一般バンドの平均人数に合わせた構成となっているが、今後は各パートに偏りが生じないように検討していく必要がある。また、楽譜のダウンロード販売については現在検討中であり、まずは在庫を残さない形としてオンデマンド販売の導入を優先的に進めている。ダウンロード販売についても、引き続き導入の可能性を視野に入れた検討を継続している状況である。現段階では時間を要するが、改善に向けた取り組みは進行中である。【一瀬（開発・振興部長）】

・ダウンロード販売については、現在複数の出版社において導入の検討が進められている。印刷費や送料が不要になる点は出版社にとっても大きな利点であり、現場からの声を参考にしな

がら、導入に向けた調整を行っている。一方で、ユーザー側にも印刷コストがかかることや、サービス提供にあたってのシステム構築が必要であることから、慎重な判断が求められている。今後は、これらの要素を踏まえながら、実現に向けた対応を進めていく方針である。【ブレーン（株）】

・課題曲のパート譜に関して問題として指摘したのは、送付された枚数の偏りではなく、一般バンド側の編成の偏りである。学校バンドではある程度楽器構成を調整できるが、一般バンドでは各奏者が希望する楽器で入団するため、クラリネットやトランペットなど特定パートに人数が偏る傾向がある。こうした実情により、既定のパート譜数では不足が生じやすく、柔軟に増刷可能な体制が必要であると考えられる。そのためにも、自由に部数調整が可能なダウンロード販売の導入が望まれる。（東海）

◇課題曲のダウンロード販売に関連し、コンクール参加に際して課題曲の演奏承諾書を提出することで参加を認めるという提案があったが、この点については、今後関係機関と協議を行い、検討を進めていく方針である。【星（第一事業部長）】

●その他

◇一瀬開発・振興部長より、現在全日本が管理するサーバーについて、今後の運用などに関する案内・説明があった。

●分科会詳細

【第1分科会：部活動の地域展開について】

◇各地共通「3つのキーワード」

1. 人材（不足、確保、育成）
2. 資金（予算不足、補助金、自治体からの協力、受益者負担）
3. 持続可能な運営（組織、体制、構築）

◇中学校の合同バンド、地域バンドの状況
愛知県：加盟285団体のうち5団体が地域クラブとしても加盟。夏は学校名、冬は地域名で出場するなど柔軟に対応。

岡山県：モデル事業として中学と地域クラブの併用を実施。課題は学校顧問と地域指導者の役割分担。

岐阜県：一部地域でコンクール出場団体が100

%地域クラブに移行。

香川県：2団体が地域クラブで出場。兼職兼業の教員が継続的に指導中だが、今後の担い手不足に懸念あり。

大阪府：合同バンド1団体が関西フィル指導のもと出場。市内中学校の登録数が減少傾向。

新潟県：地域クラブでの参加は3～5団体。来年度以降に向け、さらなる移行が見込まれる。

東京都：全体では進展が乏しく、518校中地域クラブは1団体のみ（羽村市）。市全体で部活動を廃止し、地域展開を進める動きもある。

富山県：登録は学校単位で、合同は申し込み時に判明。働き方改革により教員負担は軽減される一方、地域指導者の無償労働が課題。今後は指導者への適切な謝礼と制度設計が必要との声。

・市町によって地域移行の取組みに差がある。神戸市では「コベカツ」として約20の団体が教育委員会の認可を受けて活動しており、姫路市や淡路島でも同様の取り組みが進められている。一方で、募集をしても人が集まらない地域もあり、対応にばらつきが見られる。中学校の既存バンドを基盤とし、地域クラブへの移行やバンドの再編を模索している段階である。今後も地域性に応じた調整が求められる状況である。（兵庫）

・令和6年に地域移行推進計画を策定し、令和11年までに月2回以上の休日活動を地域クラブで行うことを目指している。ただし、指導者や楽器管理、会場確保など課題は多く、教育委員会と連携して人材確保を進めている。教育大学の学生や一般バンドとも協力し、人材バンクの構築を検討している。活動継続には財政支援が不可欠であり、行政への要望を強めていく必要がある。（函館）

・県教委主導で市町村のモデル事業が進み、現在は49市町中37で地域展開が開始されている。モデルには、地域のジュニアバンドや市民会館、高校・大学を拠点とした活動など様々な形がある。学校部活動を拠点とした地域連携も多数みられる。県教委と連携して「人材バンク」の運営に協力し、指導者を募集した際には短期間で多くの応募が集まるなど、効果が見られている。指導者の質確保や安全性を図るため、ハラスメント防止を含む研修ガイドブックを作成・公開した。（愛知）

・加盟団体へ継続的にアンケートを実施し、地域移行の実態や課題を把握している。現在、地

域クラブへの移行は60%を超えており、部活動を引き継いだ形での運営が主流である。都市部では移行が進んでおらず、移行時期が未定の団体も多い。費用面の問題も大きく、顧問の8割が「地域展開となった場合は継続しない」と回答しており、新たな体制づくりが難航している。人材バンクの導入も検討しており、今後もアンケート結果をフィードバックしながら改善を図っていく方針である。（岐阜）

・魚沼市では複数校の部活動を統合し、地域移行を進めている一方で、小規模市町村では学校を母体とした移行が主流であるなど、地域ごとに状況が異なる。新潟市では令和3年に「令和8年度以降は勤務時間外の部活動を行わない」と示され、学校ごとに対応が分かれた。現在は市教委内に推進室を設置し、地域クラブ登録制度を導入し、支援体制の整備を進めている。既に200以上のチームが形成されており、今後は学校運営協議会委員や地域コーディネーターの参画も視野に入れている。また、芸術文化団体と連携し、指導者育成の講習会実施にも取り組む予定である。（新潟）

・昨年度より一部地域では4校合同での活動が始まり、104名が参加している。合同練習は土曜のみ拠点校で行われ、平日は各校で個別に活動している。費用補助はなく、保護者負担や協力団体による支援で運営しているが、今後は財源確保が課題である。また、104名からコンクール出場50名を選抜する際の公平性も懸念されている。令和10年度には週4回の合同練習に完全移行し、学校単独の部活動は廃止される予定である。人数が増えたことで演奏の幅は広がったが、指導者不足が深刻であり、外部講師の費用も大きな課題となっている。生徒たちの意欲は高いが、十分な指導体制が整っているとは言えない状況である。（福岡）

・柏市、成田市、習志野市がそれぞれ独自の形で地域移行に取り組んでおり、現顧問と部活動指導員による運営や拠点校方式、アカデミー制による高校生の指導参加など多様なスタイルが存在する。また、9市が部活動指導員の配置事業に参画しているが、大都市と過疎地では事情が異なり、今後の調整が課題である。県は人材バンクの活用に際し、セキュリティやコンプライアンス面の講習を重視し、認定制度を導入して人材の質を担保している。こうした人材育成事業には需要が高く、教育委員会と連携して継続実施している。少子化と働き方改革の両側面

から、合同バンドや地域バンドによる活動の持続可能性が問われており、保護者負担に頼らず、国による安定的な予算措置が不可欠である。(千葉)

・ 四国では多くの県で地域移行に進展がなく、一般バンドが演奏会に中学生を誘う程度にとどまっている。香川県では2団体が地域展開を開始し、うち1つは2校による分担制で、もう1つは3校が統合し、スクールバスを用いて平日練習を実施している。楽器の維持管理は市教委が担っているが、今後の継続性には不安がある。中学生がOBバンドと活動する例もあるが、これは地域移行には当たらない。県教委は対応方針を決めかねており、協議会も運動部中心で、文化部の議論は行われていない。(香川)

・ 人材不足が課題となっており、ほとんど進んでいないのが現状である。高岡市には吹奏楽部を有する学校が11校あるが、多くても部員数は40名ほどであり、その他は20名程度である。楽器や練習場所の問題があり、部活動は学校とは切り離せない。また、地域の学校顧問が協力し合って、パートごとの講習会をそれぞれの学校でまとめることを考えている。講師の謝礼は市の補助と受益者負担とし、11校の顧問と業者との協力も今年度から展開していく。(富山)

・ 中学部活動の地域移行は進んでいない。教員委員会では兼職兼業問題と36協定が課題となっている。他の地域の課題解決の事例をお聞きたい。(大阪)

・ 行政からの具体的な支援は見られないが、地域のホールが吹連主催のアカデミー活動に全面協力してくれている。アカデミー設立の背景には、行政からの活動制限による現場の混乱と、演奏力低下への危機感があった。創設時は先行きの見えない中での「応急対応」であったが、現在は参加者も増加し、子どもたちが音楽の楽しさを実感できる場となっている。とはいえ、地域移行は本来行政の責任であり、民間団体が制度的責任を負うべきではない。アカデミーのような活動が進む一方で、連盟への加盟団体が減少する恐れもある。今後は活動のビジョンを明確にし、行政に対して必要な提言を行うなど、冷静で持続可能な方針づくりが求められる。(福島)

◇まとめ

働き方改革以上に、今後は少子化の影響がより深刻な課題となる。芸術文化を軽視すれば、

国家の持続可能性にも関わる問題であり、その重要性を国に対して継続的に訴えていく必要がある。

地域移行や合同バンドの形態には地域ごとの大きな差が見られ、指導者の確保、役割の整理、報酬体系の整備が共通の課題として浮き彫りになっている。今後も各地の取り組みを注視し、引き続き情報の共有と検討を進めていくことが求められる。

【第2分科会：大学部門の活性化について】

第2分科会では、大学吹奏楽の活性化と、学生を将来の指導者として育てる体制づくりを主なテーマとし、全国各地から正会員や事務局長など18名が参加した。各地の事例を共有し、大学部活動の継続支援・地域連携・指導者育成について協議され、以下のような意見等が出された。

・ 同一経営の高校、大学、OBバンドの繋がりを通して指導の仕方のノウハウを学んだ方を地元の中学校に派遣している。また、大学卒業後、教員になった方と連携を図っている。県吹連が主体となり、外部指導員認定講習を実施し、登録者と希望があった団体をマッチングできるようにしている。(栃木)

・ 九州の大学は、福岡県以外は1県1校しかコンクールに出場していない状況である。技術面も低下しており、将来参加校がなくなることを危惧している。部員数の減少でコンクールに出場できない状況もある。大学の活性化のためにも、大都市以外の大学の合同バンドを全日本で考えてほしい。(熊本)

・ 京都は大学数に比べて加盟団体が少なく、コンクールに出場してくるところ数団体に限られている。ローカルルールで良いので合同バンドを認めてほしい。出場してプログラムに掲載されることにより認知され、中高生の将来の選択肢も増える。(関西)

・ 県教育委員会の主導で、将来指導者になりたい大学生を部活動指導ボランティアとして公立中学校や高校へ派遣している。県の予算のため、交通費のみの支払いとなっているが、謝礼等について他県はどうなっているか参考にしたい。(静岡)

・ 制度としてはまだ確立していないが、指導者を派遣してほしいという要望が多いため、自校

の卒業生を中心に派遣しており、交通費は派遣先に負担してもらいたいとお願いしている。外部指導者の認定講習を行政から見学に来てもらい、制度化できるように取り組んでいる。(栃木)

・東京は部門連盟として大会を実施できるため、少子化や部員の少ない大学への救済策として合同バンドも参加できるようB組を作り、参加規定も変更した。(都大学)

・大学生が大会の運営にどのように係わっているか伺いたい。宮城県も大学代表の常任理事を置いているが、運営会議や大会では時期的な問題もあり、学生と一緒に運営していくという認識を育てられないのが現状だ。(宮城)

・高校を卒業する際、吹奏楽部員に大会運営の参加についてアンケートを取っており、登録した方に毎年声をかけ協力してもらっている。募集をかけると20～30人は集まり、運営面にも関心を持ってもらえるようにしている。(茨城)

・大学やOBバンドに声をかけ大会を手伝ってもらっているので、中学校や高校の先生との繋がりができ、指導に来てほしいという関係ができることもある。部員が減少の中で繋がりを大切にしていきたい。また、東関東では幼少期に吹奏楽は楽しいということを体感させる事業として幼稚園への訪問演奏に補助を出している。(栃木)

・コンクールに参加している2校の大学生に声をかけ大会運営を手伝ってもらっている。手伝いを通して役員の先生方と繋がり、学校に指導に行くようになった。また、大学卒業後は広島県の教員にもなっている。大学のサークル活動は、大学法人のサポートがなく、学生が運営している。将来の指導者を育てる上で、打ち合わせへの参加や大会の手伝いの場を与えたことは良かった。(広島)

・大学部門になっているため学生を集めやすい。学生が理事、OBが役員として面倒を見ている。東京都吹奏楽連盟でも役員として、先生方との繋がりを築いている。毎年、学生役員主導で中学生の大会に手伝いを派遣しているが、将来の連盟で役立てるよう、補助するかたちで育てている。学生を小学校、中学校、地域バンドに派遣できるような指導者へ、更にその後、社会人になった時にも指導を担うことができるような人材を育てるカリキュラムのフォーマットを全日本に作成してもらいたい。大学全体が活性化するためには、横のつながりをもつことが大切

であると考え、30校ぐらいが集まって合同バンドを組み、合同演奏会を行った。学生は関わり方次第で大きく成長してくれる。(都大学)

・大学生の技量を見極める先生はいるのか、名前だけの顧問で緊急時に誰が責任を取るのか、派遣するにはちゃんと責任を持っているところでないといけない。学校で楽器別指導者が必要な時は、音楽大学の先生に紹介していただいた生徒を派遣し謝礼を払っている。(熊本)

・県のバックアップを受け音楽大学卒業生を対象に、指導者育成のための講習を準備している。音楽大学以外の学生については、講習を受けた後に指導者としての可否をどのように判断されているか伺いたい。(石川)

・基本的に自校の卒業生を派遣しており、高校時からコンプライアンス指導に力を入れ、責任をもってできる人に限定している。また、外部指導員認定講習にもコンプライアンスに関する講義を設けている。大学の吹奏楽部には、責任を取れる教員を配置する等の組織づくりが必要である。(栃木)

・大学の顧問がちゃんといえるのか、放置されているのかの割合を知りたい。中学校も転換時期で顧問がいなくなり、大学生になるまでに部活動としてチームを経験できない子が増えていってしまう。(日胆)

・大学の現状は、名前だけの顧問と面倒を見る顧問が両極端である。何をもって活性化というか難しいが、横の繋がりを強化し、小さい大学がコンクールに出られなくても活動を続けていく等、活動に意義を見出してもらいたい。また、ある大学では年代ごとにOB・職員がおり、部長・監督・コーチが中心となって指導に当たっている。学内では学生がどう動いてよいかわからない時にOBがサポートしている。一緒にやることで力がついていけば、活性化や部員増加に繋がる。(都大学)

・キャンパスが違って一緒に活動することに意義を感じている大学も、一緒に活動することに苦慮している状況の大学もあるが、今後、複数のキャンパスがある大学に対し、どのような加盟を認めていくことになるのか。(静岡)

・現状は大学内の1団体以外は一般連盟に加盟せざるを得ない。大学部門を盛り上げていくためにも複数加盟を認めてほしい。(三重)

・キャンパスが離れている、学部が違う場所にある等から、複数活動している大学はある。大学生のみの合同・同一大学での複数加盟を排除

しないような仕組みが必要である。(都大学)

・大学生と連盟役員との意見を集約する場がなく、大学生が何を求めているのかを把握できていない。高校から大学へ進学して吹奏楽を続けたいが、大学が積極的に活動をしていない、魅力不足等の理由からOBバンドに入り大学では入らない学生が多い。送り出す高校側、受け入れる大学側で変化を考えていかなければならない。(茨城)

・指導者育成として、音大卒業生だけでなく一般大学の吹奏楽部卒業生が認定試験をする場合、どの様に認定すればよいのか、また受け皿はどのように作られるのか、資格を取ったらどんなメリットがあるのか、教えていただきたい。(石川)

・大学生を現場で見えていないと分からない。OBがいれば連携し、吹奏楽部だけを窓口とせず、大学全体と連携し幅広い人材を確保していくことが大切である。また、何をもって活性化か、コンクールの参加が増える事だけでなく、少人数バンドでも充実した持続的な活動を行うことではないか。(都大学)

・活性化について、いろいろな目標を持っている大学生に対し、競い合う部分以外に、大学生が吹奏楽部に入って良かった、楽しいと思える場面を作ることが一番大事ではないか。(石川)

・1大学1加盟ではなく、合同バンド・複数加盟を認める方向性が必要だと思う。(栃木)

・コンクールに出ないから加盟しないではなく、それでも加盟してもらえような連盟でなければいけない。日胆地区では高専が一つあるが、コロナ後活動が途絶えコンクールには出ていない。しかし、アンサンブルを組んで町の吹奏楽祭には出演している。(日胆)

・埼玉県では、大学の役員は職一の役員が面倒を見ており、大会の運営も一緒に行なっている。大学吹奏楽部の活性化が将来の指導者育成につながるとは限らず、分けて考えることも必要ではないか。中学や高校での吹奏楽部の経験が原動力になることも多く、卒業生に将来の指導者育成として経験を積み場を用意していくことが大事である。また、地元に戻り指導者になる可能性も多く、このような場で情報を共有し、進めることはとても意義があると思う。(西関東)

・コンクールに参加しなくても連盟に加盟している大学がある。大会の手伝いや演奏会、YouTubeでの発信など活動を行っている。そういった大学にもメリットを感じてもらえるよう

な取り組みが必要である。また、今回のテーマである活性化について、何を問題としているのか焦点がはっきりしていないため、全日本からもう少し詳細な提起をしてほしい。(愛媛)

・手伝いの手当は大学の運営の資金源になるので無報酬は避ける。大学生が今何を考えどんなことをして欲しいか、直接話し合う場を設け受け止めることが大切である。コロナ禍で部活の運営のノウハウが切れ戻りきっていない。きっかけを作ってあげることが我々の役目である。(都大学)

・合同演奏会がコロナ禍で途絶えたため、九州大会大学の部のコンクール審査集計時間を利用して、コンクールに出場した団体に限らず大学吹連の事業として合同演奏会を実施している。(福岡)

・活性化の一助として、講習会や演奏会を行なった大学へ補助金を出している。また、大学生の理事は、コンクールに出場している大学に限らず加盟している大学で回しており、活性化に繋がっている。(熊本)

・指導者育成を視野に入れ、大学の活躍の場に50万ずつの補助を行っている。(福岡)

◇まとめ

会議全体を通して、大学生の意見を聞く機会の創出、経済的支援、合同演奏会の開催、役員への大学生の登用、同一大学の複数加盟、合同バンドのコンクールへの参加など、様々な活性化策が提案された。また、活性化の定義や目標を明確にすることの重要性も指摘された。

【第3分科会：著作権について】

ブレーン株式会社の大江賢一氏を招き「全日本吹奏楽連盟主催事業に関わる楽譜著作権について」と題して、著作権許諾・楽曲やパート変更による演奏許諾・合同演奏における楽譜使用上の注意など現場でよくある疑問に対し、出版社としての立場・ルールなどについて講義を受けた。

冒頭、著作権への基本的理解と協力の呼びかけの中で「子供たちが正当な形で音楽に触れるためには、どうすれば問題なく演奏できるかの具体策を考え、楽譜を正しく入手していただくことが作曲家への敬意と正当な評価となり、作品の創作意欲を上げていただくことが大切」との話があった。

引き続き「出版社へのよくある問い合わせ」についての具体的な話題提供があり、そのことに対しての質問や意見交換が行われた。

それぞれの主な内容と論点は、次の通りである。

①合同バンド・地域バンドについての楽譜利用の取り扱い

- ・出版社によっては、複数校合同での楽譜利用について柔軟に対応していること
- ・ただし、楽譜の使用方法について許諾を取っていないと演奏できない場合もある。

②パート変更や編曲に関する判断

- ・演奏楽器の置き換え（例：オーボエ→フルート）は、基本的には音の変更がなければ問題ないこともあるが、ケースバイケースで基本的には出版社への確認が必要。
- ・特に、海外出版社の場合は規格が厳格で、変更には事前確認と許可が必要。その際、許諾料が発生する場合もある。

③楽譜コピーや楽曲アレンジのルール

- ・楽譜の正式な所有者を前提に、コピーに関して、スコアやパート譜については違法（著作権者に不利益を損ねない範囲）でなければ教育目的の範囲で認められることもあるが、使用後の返却や制限枚数が定められている場合がある。
- ・マーチング曲の場合も含めアレンジの場合は、基本的には原作者の意図や権利を尊重し、必ず編曲者名を併記することが求められる。著作者人格権を尊重することを前提にした上で、カットや楽器の置き換えについては基本的に認めているが、音やリズムの変更、管楽器を打楽器パートで演奏するということは基本的に許可していない。
- ・作曲者によってはNGの方もおられるので、事前の確認が必要。

④演奏楽譜のコストと手続きの実情

- ・海外楽譜の演奏許諾料は高額になる。（例：編曲料や、録画・配信費用もかかる場合がある。）
- ・演奏に関する許諾に関しては、手続きは煩雑でも著作権の観点から不可欠である。

⑤アンサンブルコンテストでの楽譜に指定された人数以外での演奏について

- ・基本は認められないが、新型コロナ・インフルエンザ等によるやむを得ない事情で人数変更が生じた場合は、主催者の判断（診断書等の理由書の提出を求める等）で出場を認めている。

⑥楽譜販売の将来的展望

- ・デジタル配信やダウンロード販売の拡充が見

込まれるが、それに伴う新たな管理体制やルールが必要。

・紙媒体から移行期にあるが、教育現場とのギャップも依然として大きい。

ここまでは、演奏現場の現実と法的・倫理的な配慮とのバランスをどう取るかが中心的課題であった。

後半は、今回の分科会開催にあたりお願いしておいた11支部各大会における著作権に関する対応状況について発表し、意見交換をした。併せて、これまで全日本吹奏楽連盟事務局に問い合わせのあった事例についても紹介した。いずれの大会においても演奏が出来なかった場合はなかったことも確認された。最後に、意見交換を通して、著作権等において少しでも疑義が生ずるような場合においては、出版社または作曲者に問い合わせが必要であることの確認もされた。問い合わせ先一覧として、ブレーン社より国内外の吹奏楽譜に関わる出版社の一覧も紹介された。

【第4分科会：今後の吹奏楽連盟の活動について】

サブテーマ「吹奏楽連盟の課題」と「夢のある理想の吹奏楽連盟」について討議された。

◇全体的に共通している「吹奏楽連盟の課題」の討議内容は、以下の5点である。

①少子化の影響

- ・小学生の部活離れや、全体のマーチング離れが加速している。授業料無償化による公立学校の部員減少もあり、参加団体数も減る一方である。A部門よりもB部門の参加数が増加しているが、そのB部門でさえ定員を減らす地域もある。大学、職場・一般部門はコンクールの倍近い団体がアンサンブルコンテストへ出場しているという現状がある。
- ・中学卒業後に県外の学校に進学してしまい、高校の部員の確保が難しい事例や、学校の統廃合による影響でコンクールの制度変更をおこなった地域もある。

②地域展開の格差

- ・地域展開を運動部と同様に吹奏楽部が進めるのは無理がある。自治体によって取り組みも様々で、官民連携の難しさを感じている。県市町村教委との連携の強化が不可欠と考える。

・複数の町村で合同バンドの形態ができないだろうかと模索しているが、隣接学校が遠く、バンドが組めない。地域によって加盟数の偏りがあり、離島への配慮や支援も必要である。また、中学生の部活動の在り方や土日の練習・本番の扱い、小学生バンドの地域での受け入れ方、合同バンドの練習方法など、課題も多い。

・外部指導者を入れた場合の学校セキュリティの課題など、地域展開に向けて制度を整える必要がある。

③指導者・役員の在り方

・若手指導者、専門的な指導者の人員不足が挙げられるが、人材育成の時間の確保も難しい。指導者が長く続かない実態や、指導の積極性にも格差がみられる。

・教員の異動に伴って、バンド活動の存続が危ぶまれる事態が起きている。教員の兼職兼業が進んでおらず、働き方改革の影響もあり、練習が制限されてしまい、演奏レベルの低下が顕著に表れている。

・大会等の運営スタッフや事務局員が不足し、仕事量も増加している上に後継者不足も問題となっている。役員の高齢化による世代交代のタイミングと人材育成が課題である。

④財源問題

・参加団体数の減少により連盟の運営資金の確保が厳しくなっているため、収益を生み出す方策が必要である。また、会場使用料の増額も深刻である。

・楽器の高騰化や、バスやトラック代等の1人当たりの負担増加、遠征費・活動費の確保が困難である。

⑤大会運営について

・開催会場が県内に無く、県外で実施せざるを得ない事例や、会場を優先的に確保できない問題がある。ホールの建設や古い施設の改修も進まない。

・各都道府県でコンクールの審査方法に違いがあるので、採点や代表選出の方法を調査して共有したい。

・地区大会の開催が遅いという理由で出場しない高校がある。

・小学生バンドフェスティバルへの参加のアプローチやメリットを示せていない。

・コンクールA部門の定員を50名に減らせない

か。アンコンは打楽器編成が多く、金管が少なめである。打楽器の上位大会への推薦は1枠にできないだろうか。

◇「夢のある理想の吹奏楽連盟」の討議内容は、以下の4点である。

①大会の発展

・コンクールの全国大会を中高とも40名バンドで各2日間の実施や、20名までの小編成での開催、B部門の全国大会、各都道府県1団体を代表選出した全国大会を開催してほしい。一般の部に中高生が参加する是非を検討してほしい。

・中高のコンクール全国大会、アンサンブルコンテストの出場枠を増設し、アンコンは定員数を10名まで増やしてもらいたい。

・一定の演奏水準を満たせば支部大会へ出場できる間口を広げてほしい。

・審査員だけでなく、聴衆の投票による審査を導入してはどうか。

・コンクール課題曲をなくし、憧れの全国大会に多くの団体が出場できるようなシステムができると良い。さらに、コンクール等のテレビ放映や発表の場の設定し、広く周知させる。同様にマーチングコンテストの規定課題も無くし、多くの団体が参加できるようにする。

・全国でコンクール部門の採点方法を統一する。コンクール、コンテストの実施規定の再考も視野に入れる。

・ICTの活用

②様々な交流の場

・世代を超えたコミュニケーション活動や、年齢関係なく一体となって吹奏楽に取り組めるような環境づくり、子供が生涯を通して楽器や音楽を続けることができる体制づくりが吹奏楽人口を増やす道でもある。

・少人数バンドの活躍の場を増やしていき、大人になっても吹奏楽に関わっていききたいと思える子供を育てたい。

・連盟役員が会員の声に耳を傾け、加盟団体や若手の指導者同士の繋がりを強化していく。理事間でも学びあいを深める。

・若い理事が遠慮なく発言、行動できる雰囲気づくりを進めるとともに、吹連業務のノウハウを若い世代へ継承していきたい。

③コンクール以外の活動

・全日本もコンクール以外のイベント等に主体

的に注力し、YouTubeを活用してのオンラインコンテンツを充実させてほしい。財政面においても、各連盟の取り組みに全日本からの支援や助成を得られる「しくみづくり」をお願いしたい。

- ・メディアを活用して全国大会を番組放映するなど、吹奏楽の魅力を発信する。スポンサーの獲得や企業・地域との連携を強化し、日本の誇るべき吹奏楽を世界に発信していく。

- ・プロの吹奏楽団との合同演奏やレッスンなど、本物の音楽に触れる機会をつくる。

- ・著作権フリーの楽譜の充実。

- ・3年に一度の大ホールでのコンサート、点数をつけない演奏会、音楽の出前コンサートや学校間の交流を目的としたフェスタなど、コンクール以外のイベントを企画・開催し、収益を確保したり、外部に向けて発信していくツールとして活性化させる。

- ・加盟特典（ホール、バス、トラック等の費用の値引きなど）を設定し、加盟団体の獲得を目指す。

- ・大会等で加盟団体が達成感を得られるような連盟活動の遂行や、少子化や小編成でもやりがいのある行事を吹奏楽で創出する。

④指導者の育成

- ・指導者向けのオンライン研修等の開催や、育成システムづくりを強化し、講習会などの費用面においては全日本から助成してもらえる機会があると助かる。

- ・教師の魅力ややりがいを広めたい。

◇連盟の課題や理想を書き出し、項目をカテゴリごとに分類整理したことで、共通課題の共有・今後の連盟としての在り方・支援体制などのヒントが多く示唆された。



写真提供：(株) 大阪フォトサービス

第48回全日本アンサンブルコンテスト プログラム

2025.3.20 (祝・木) 福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい



審査員 (50音順)

市川 智子 フルート、京都市交響楽団
伊藤 寛隆 クラリネット、日本フィルハーモニー交響楽団
岩本 伸一 サクソフォン、洗足学園音楽大学
岡崎 耕二 トランペット、東京都交響楽団
栗田 晃 トロンボーン、読売日本交響楽団
窪田 健志 打楽器、名古屋フィルハーモニー交響楽団
成本 理香 作曲、愛知県立芸術大学

高等学校の部

- 1 東京都代表 都高等学校 東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部 (木管八重奏)
レイディアント・ファンタジー／下田和輝
- 2 東京都代表 都高等学校 八王子学園八王子高等学校吹奏楽部 (打楽器八重奏)
蛍／N.ドートリー
- 3 北陸代表 富山県 富山県立富山南高等学校吹奏楽部 (サクソフォン四重奏)
「サクソフォン四重奏曲」より 第3楽章 ロンド フィナーレ／G.ラクル
- 4 西関東代表 埼玉県 埼玉県立伊奈学園総合高等学校吹奏楽部 (金管八重奏)
かぐや〜金管八重奏のための幻想曲／三澤 慶
- 5 東北代表 宮城県 聖ウルスラ学院英智高等学校吹奏楽部 (サクソフォン八重奏)
蜃気楼／福島弘和
- 6 北海道代表 北海道 北海道遠軽高等学校吹奏楽部 (金管八重奏)
劇音楽「アプデラザール」組曲／H.パーセル
- 7 九州代表 鹿児島県 原田学園鹿児島情報高等学校吹奏楽部 (金管八重奏)
テ・デウム／M.A.シャルパンティエ
- 8 関西代表 兵庫県 尼崎市立尼崎双星高等学校吹奏楽部 (打楽器八重奏)
コンシダー・ザ・バース／R.ジョージ
- 9 東関東代表 千葉県 千葉県立幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部 (金管八重奏)
「幻影」より I. 切り裂かれた都市 II. すれ違う心 IV. 逃げ惑う心／小長谷宗一
- 10 東関東代表 茨城県 常総学院高等学校吹奏楽部 (クラリネット六重奏)
「家族」より I. II. III／R.ルシュール
- 11 東北代表 秋田県 ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部 (打楽器五重奏)
マリンバ・コンチェルティノ「ザ・ウェーブ」〜ソロ・マリンバと4人の打楽器奏者のための〜／安倍圭子
- 12 東海代表 三重県 皇學館高等学校吹奏楽部 (木管八重奏)
3つの幻影／松下倫士
- 13 西関東代表 埼玉県 春日部共栄高等学校吹奏楽部 (金管八重奏)
楽市楽座 -さくらの抄-／田村修平
- 14 北陸代表 富山県 富山県立高岡商業高等学校吹奏楽部 (クラリネット五重奏)
アボクロシス〜5人のクラリネット奏者のための／石川健人
- 15 四国代表 香川県 香川県立坂出高等学校吹奏楽部 (打楽器四重奏)
マリンバ・スピリチュアル／三木 稔
- 16 九州代表 佐賀県 佐賀学園高等学校吹奏楽部 (打楽器六重奏)
6人の打楽器奏者のための「ターラ」／西村 朗
- 17 四国代表 香川県 高松第一高等学校吹奏楽部 (打楽器八重奏)
ペンデュラム・ウェーブ2／濱口大弥

- 18 北海道代表 北海道 旭川明成高等学校吹奏楽部（木管八重奏）
ミスト ～8人のソロ奏者のための～／林 大地
- 19 東海代表 愛知県 安城学園高等学校吹奏楽部（打楽器六重奏）
マリンバ・コンチェルティーノ「ザ・ウェーブ」／安倍圭子
- 20 中国代表 岡山県 就実高等学校吹奏楽部（金管八重奏）
水の宮殿／松下倫士
- 21 関西代表 兵庫県 淳心学院中学校・高等学校音楽部（打楽器八重奏）
協奏曲／J.シュワントナー
- 22 中国代表 岡山県 岡山学芸館高等学校吹奏楽部（クラリネット四重奏）
フェスティバル／R.ブートリー

大 学 の 部

- 1 東海代表 愛知県 愛知教育大学吹奏楽団（サクソフォン五重奏）
ねがい（サクソフォン五重奏版）／石毛里佳
- 2 北海道代表 北海道 北海道教育大学函館校吹奏楽団（金管八重奏）
ジ・エヴァーグリーン・マインド／長生 淳
- 3 関西代表 京都府 龍谷大学吹奏楽部（サクソフォン四重奏）
グラーヴェとプレスト／J.リヴィエ
- 4 四国代表 徳島県 四国大学吹奏楽部（打楽器六重奏）
キャッチング・シャドウ／I.トレヴィノ
- 5 九州代表 福岡県 福岡工業大学吹奏楽団（管打八重奏）
ミスディック・プラス／J.グラスティル
- 6 東北代表 福島県 福島大学吹奏楽団（サクソフォン八重奏）
アンリミテッド／江原大介
- 7 東京都代表 都大学 東海大学吹奏楽研究会（木管八重奏）
トゥマルチュアス・エモーションズ／田村修平
- 8 東関東代表 神奈川県 神奈川大学吹奏楽部（金管五重奏）
「金管五重奏のためのデビルティスマン」より II. スケルツェット III. アンダンテ コン モート IV. 終幕のファンファーレ／S.カンブルラン
- 9 北陸代表 福井県 福井工業大学吹奏楽部（クラリネット四重奏）
「オーディションのための6つの小品」より／J.M. ドゥファイ
- 10 中国代表 広島県 広島大学吹奏楽団（木管八重奏）
幽玄の花／田村修平
- 11 西関東代表 埼玉県 文教大学吹奏楽部（金管八重奏）
忘却の城跡／八木澤教司



中 学 生 の 部

- 1 北陸代表 富山県 射水市立小杉中学校吹奏楽部（フルート四重奏）
フルート四重奏のための三章／田村修平
- 2 西関東代表 埼玉県 さいたま市立土屋中学校吹奏楽部（打楽器八重奏）
ヨハネ黙示録の天使たち／D.R. ギリングハム
- 3 東京都代表 都中学校 小平市立小平第三中学校吹奏楽部（管打六重奏）
アニマ・エテルナ ～今を生きる即身仏（木打六重奏版）／松下倫士
- 4 東海代表 長野県 松本市立鎌田中学校吹奏楽部（金管八重奏）
第一旋法による8声のカンツォン／G.ガブリエリ
- 5 西関東代表 埼玉県 朝霞市立朝霞第一中学校吹奏楽部（クラリネット三重奏）
蛇儀礼／尾崎一成
- 6 東北代表 秋田県 湯沢市立湯沢南中学校吹奏楽部（クラリネット五重奏）
波影／片岡寛晶

- 7 九州代表 鹿児島県 鹿児島市立吉野東中学校吹奏楽部（トロンボーン三重奏）
バックキー・シングス／B.E.リン
- 8 中国代表 山口県 桑の華ウインドアンサンブル（打楽器四重奏）
エスケープ・ヴェロシティ／D.ホール
- 9 関西代表 兵庫県 加古川市立中部中学校吹奏楽部（木管八重奏）
ガラスの海と都市の情景／ミキナ
- 10 東関東代表 千葉県 松戸市立第四中学校吹奏楽部（木管八重奏）
シーニック・ドライブ／阿部勇一
- 11 関西代表 大阪府 大阪市立城陽中学校吹奏楽部（打楽器五重奏）
マリンバ・コンチェルティーノ「ザ・ウェーブ」～ソロ・マリンバと4人の打楽器奏者のための～／安倍圭子
- 12 四国代表 高知県 高知県立高知国際中学校吹奏楽部（打楽器四重奏）
マリンバ・コンチェルティーノ「ザ・ウェーブ」／安倍圭子
- 13 東北代表 福島県 伊達市立伊達中学校吹奏楽部（木管七重奏）
気まぐれで感傷的なコケット／田村修平
- 14 東関東代表 神奈川県 相模原市立田名中学校吹奏楽部（サクソフォン四重奏）
サクソフォン四重奏のための「バック・バーナー」／F.ティケリ
- 15 北陸代表 富山県 砺波市立庄西中学校吹奏楽部（打楽器三重奏）
ザ・ウェーブ インプレッションズ ～ソロマリンバと2人の打楽器奏者のための～／安倍圭子
- 16 北海道代表 北海道 札幌市立啓明中学校吹奏楽部（木管八重奏）
トゥマルチュアス・エモーションズ／田村修平
- 17 東海代表 愛知県 春日井市立中部中学校吹奏楽部（管弦打八重奏）
土から生まれ、土へと還る／林 大地
- 18 九州代表 福岡県 福岡市立春吉中学校吹奏楽部（管楽八重奏）
巡礼歌（管楽八重奏：Fl./Cl./Cl./B.Cl./A.Sax/T.Sax/B.Sax）／松下倫士
- 19 中国代表 岡山県 岡山市立福田中学校吹奏楽部（打楽器五重奏）
マリンバ・コンチェルティーノ「ザ・ウェーブ」～ソロ・マリンバと4人の打楽器奏者のための～／安倍圭子
- 20 四国代表 徳島県 徳島市国府中学校吹奏楽部（打楽器八重奏）
紅蓮の斜陽 ～8人の打楽器奏者のために～／J.グラスティル
- 21 北海道代表 北海道 旭川市立永山中学校吹奏楽部（木管八重奏）
わたつみの暗翳／林 大地
- 22 東京都代表 都中学校 中央区立日本橋中学校吹奏楽部（金管八重奏）
太陽風／三澤 慶



職 場 ・ 一 般 の 部

- 1 東京都代表 都一般 東京隆生吹奏楽団（木管八重奏）
レイディアント・ファンタジー／下田和輝
- 2 西関東代表 山梨県 Calces（サクソフォン四重奏）
「サクソフォン四重奏曲」より 第3楽章／A.デザンクロ
- 3 九州代表 宮崎県 ビエドゥール（サクソフォン四重奏）
サクソフォン四重奏のためのコンセル／J.リュエフ
- 4 東関東代表 神奈川県 横浜プラスオルケスター（金管八重奏）
「テレブシコーレ舞曲集」より I.Entree II.Bransle Double III.Spagnoletta IV.Bourree／M.プレトリウス
- 5 四国代表 香川県 ダッパーサクセバース（サクソフォン四重奏）
アンダンテとスケルツォ／E.ボザ
- 6 四国代表 香川県 高松市民吹奏楽団（クラリネット六重奏）
ザイデンシュトラースン ～クラリネット六重奏のための～／阿部勇一
- 7 東関東代表 神奈川県 相模原市民吹奏楽団（木管八重奏）
トゥマルチュアス・エモーションズ／田村修平
- 8 東北代表 宮城県 名取交響吹奏楽団（クラリネット三重奏）
紅影 ～3人のクラリネット奏者のために～／片岡寛晶

- 9 西関東代表 埼玉県 川金アンサンブルリベルテ吹奏楽団（管打八重奏）
ブック・オブ・ザ・デッド ～プラスとパーカッションのための～／阿部勇一
- 10 北陸代表 福井県 華水扇（打楽器八重奏）
岩窟の虎 ～8人の打楽器奏者のために～／J.グラスティル
- 11 中国代表 島根県 イルニード・サクソフォンアンサンブル（サクソフォン四重奏）
トルヴェールの＜惑星＞より 慧星／長生 淳
- 12 東海代表 愛知県 安城プラスオルケスター（金管八重奏）
軌道共鳴／三澤 慶
- 13 中国代表 広島県 NTT西日本中国吹奏楽クラブ（サクソフォン四重奏）
グラーヴェとプレスト／J.リヴィエ
- 14 関西代表 兵庫県 アルペジオ吹奏楽団（金管八重奏）
ダンツァ・ストウルツトゥーラⅢ／田村修平
- 15 九州代表 佐賀県 佐賀市民吹奏楽団（クラリネット四重奏）
「オーディションのための6つの小品」より／J.M.ドゥファイ
- 16 東北代表 福島県 IBCサクソフォンアンサンブル（サクソフォン四重奏）
「サクソフォン四重奏曲」より 第3楽章／A.デザンクロ
- 17 関西代表 大阪府 創価学会関西吹奏楽団（金管八重奏）
ダンツァ・ストウルツトゥーラ／田村修平
- 18 北陸代表 福井県 ソノール・プティ・オルケストル（管打八重奏）
管楽アンサンブルのための「ハルモニア」／林 大地
- 19 東海代表 静岡県 ヤマハ吹奏楽団浜松（金管八重奏）
アクション プラス／B.サドラー
- 20 東京都代表 都一般 創価グロリア吹奏楽団（サクソフォン四重奏）
プロメーテウスの夜／田村修平
- 21 北海道代表 北海道 函館吹奏楽団（クラリネット五重奏）
エンスロー／ミキナ
- 22 北海道代表 北海道 札幌プラスバンド（金管八重奏）
「幻影」より I. 切り裂かれた都市／小長谷宗一



写真提供：(株) フォトクリエイト

成績一覧 ●全日本アンサンブルコンテスト

高等学校の部

出演順	団 体 名	賞
1	東海大学付属高輪台	金
2	八王子学園八王子	金
3	富山県立富山南	銀
4	埼玉県立伊奈学園総合	銀
5	聖ウルスラ学院英智	銀
6	北海道遠軽	銀
7	原田学園鹿兒島情報	金
8	尼崎市立尼崎双星	金
9	千葉県立幕張総合	金
10	常総学院	銅
11	ノースアジア大学明桜	銀
12	皇 學 館	金
13	春日部共栄	金
14	富山県立高岡商業	銅
15	香川県立坂出	金
16	佐賀学園	金
17	高松第一	銀
18	旭川明成	金
19	安城学園	金
20	就 実	銀
21	淳心学院	金
22	岡山学芸館	金

大学の部

出演順	団 体 名	賞
1	愛知教育大学	銀
2	北海道教育大学函館校	銅
3	龍谷大学	金
4	四国大学	金
5	福岡工業大学	金
6	福島大学	銅
7	東海大学	金
8	神奈川大学	銀
9	福井工業大学	金
10	広島大学	金
11	文教大学	金

中学生の部

出演順	団 体 名	賞
1	射水市立小杉	金
2	さいたま市立土屋	金
3	小平市立小平第三	金
4	松本市立鎌田	銅
5	朝霞市立朝霞第一	銀
6	湯沢市立湯沢南	銀
7	鹿兒島市立吉野東	銀
8	桑の華ウインド	銀
9	加古川市立中部	金
10	松戸市立第四	銀
11	大阪市立城陽	金
12	高知県立高知国際	金
13	伊達市立伊達	銀
14	相模原市立田名	金
15	砺波市立庄西	金
16	札幌市立啓明	銀
17	春日井市立中部	金
18	福岡市立春吉	銅
19	岡山市立福田	銀
20	徳島市国府	金
21	旭川市立永山	金
22	中央区立日本橋	金

職場・一般の部

出演順	団 体 名	賞
1	東京隆生	銀
2	C a l c e s	金
3	ビエドゥプール	銀
4	横浜プラス	銀
5	ダッパースクセーバース	銀
6	高松市民	銀
7	相模原市民	金
8	名取交響	金
9	川金リベルテ	金
10	華水扇	金
11	イルニード	銀
12	安城プラス	銀
13	N T T 西日本中国	金
14	アルベジオ	金
15	佐賀市民	金
16	IBCサクソフォン	金
17	創価学会関西	金
18	ソヌール・プティ	銀
19	ヤマハ	金
20	創価グローリア	金
21	函 館	銅
22	札幌プラス	銀

予定が変更となる可能性があります。詳細は各吹奏楽連盟のホームページ等でご確認ください。
2025年6月27日現在

2025年度 吹奏楽コンクール 《日程予定表》

●北海道支部●

函館地区	7/26(土)27(日) 函館市民会館
日胆地区	8/2(土)小・中B・高 3(日)中AC・大・職一 苫小牧市民会館
札幌地区	8/1(金)中A・高A 2(土)高BC 3(日) 小・大・職一 5(火)中C 6(水)中B 札幌コンサートホールKitara
空知地区	8/2(土)小・中C・高AB 3(日)中AB・高 C・職一 岩見沢市民会館
旭川地区	8/2(土)中BC・高A・大 3(日)小・中A・高 C・職一 旭川市民文化会館
名寄地区	8/3(日) 美深町文化会館COM100
北見地区	8/2(土)中・高BC・大 3(日)小・高A・職一 北見市民会館
釧路地区	7/26(土)中・高 27(日)小・大・職一 コーチャンフォー釧路文化ホール (釧路 市民文化会館)
帯広地区	8/2(土)中BC・高AB 3(日)小・中A・高 C・大・職一 帯広市民文化ホール
留萌地区	8/3(日) 小平町文化交流センター
稚内地区	7/27(日) 稚内総合文化センター

北海道支部

8/28(木)高AC 29(金)中BC
8/30(土)中A・高B・大小編成
8/31(日)小・大・職一
札幌コンサートホールKitara

●東北支部●

宮城 県	7/31(木)高 8/1(金)中小編成 2(土)中 8/3(日)小・大・職一 仙台銀行ホールイズミティ21
地区大会	仙台青葉・泉7/19(土)20(日) 仙台銀行ホールイズミティ21 仙台太白・仙台宮城野若林7/12(土)13(日) トーケネットホール仙台(仙台市民会館) 名取・仙南7/19(土)20(日) 岩沼市民会館 多賀城・石巻7/19(土)20(日) 多賀城市文化センター 栗原・大崎7/12(土)13(日) 栗原文化会館 登米・本吉7/13(日) 登米祝祭劇場水の里 ホール・Abebisou
岩手 県	7/26(土)中 27(日)小・高・大 トーサイクラシックホール岩手 (岩手県 民会館) 8/2(土)中小編成 3(日)高小編成・職一 奥州市文化会館
地区大会	県北7/6(日) 二戸市民文化会館 盛岡7/5(土)6(日) トーサイクラシックホ

	ール岩手(岩手県民会館) 中央7/5(土)6(日) 北上市文化交流センタ ーさくらホールfeat.ツガワ 県南6/28(土)29(日) 一関文化センター 沿岸7/5(土)6(日) 釜石市民ホールTETTO
青 森 県	7/25(金)中・高 26(土)中小編成 7/27(日)小・高小編成・高合同・大・職一 リンクステーションホール青森
地区大会	弘前7/5(土)中・高 6(日)小・中小編成・ 大・職一 弘前市民会館 八戸7/5(土)中小編成・高・大 7/6(日)小・中・高小編成・職一 SG GROUPホールはちのへ (八戸市 公会堂)
	中央7/12(土)小・中小編成・高 7/13(日)中・高小編成・高合同・大・職一 下北文化会館
秋 田 県	7/20(日)小・大・職一 31(木)中 8/1(金)中小編成 2(土)高 あきた芸術劇場ミルハス
地区大会	中央7/4(金)高 5(土)中 6(日)中小編成 あきた芸術劇場ミルハス 県北7/5(土)中小編成 6(日)中・高 ほくしか鹿鳴ホール
	県南7/5(土)中・高 6(日)中小編成 湯沢文化会館
山 形 県	8/1(金)高 2(土)小・中・大 8/3(日)中小編成・職一 やまぎん県民ホール
地区大会	村山7/19(土)中・高 7/20(日)小・中小編成・高小編成・大・職一 やまぎん県民ホール 置賜7/19(土)中 20(日)小・高・職一 長井市民文化会館 最北7/19(土)中小編成 20(日)中・高・職一 新庄市民文化会館 田川7/20(日) 荘銀タクト鶴岡 飽海7/20(日) 酒田市民会館
福 島 県	7/26(土)小・高小編成 27(日)中小編成・大 いわき芸術文化交流館アリオス 8/2(土)中 3(日)高・職一 けんしん郡山文化センター (郡山市民文化センター)
地区大会	県北7/6(日)小・中・高小編成・大・職一 7/7(月)中小編成・高 パルセいいざか 県南7/11(金)中小編成・高小編成 7/12(土)小・中 13(日)高・大・職一 けんしん郡山文化センター (郡山市民文化センター)
	会津7/5(土)中・高小編成 7/6(日)小・中・高・職一 喜多方プラザ文化センター
	いわき7/13(日)小・中・大・職一 7/14(月)中小編成・高 いわき芸術文化交流館アリオス
	相双7/13(日) 南相馬市民文化会館ゆめはっと

東北支部

8/23(土)高 24(日)中

けんしん郡山文化センター

9/6(土)小・高小編成・大 7(日)中小編成・職一
リンクステーションホール青森

※詳細は東北吹奏楽連盟ホームページをご確認ください。

●東関東支部●

栃木県 7/29(火)30(水)中B 31(木)高B

8/8(金)中B代選・高A

8/9(土)中A

8/10(日)小・中CD・高CD・大・職一
宇都宮市文化会館

茨城県 8/8(金)高A 9(土)小・高B

8/10(日)大・職一 11(祝・月)中B

8/12(火)中A 水戸市民会館

地区大会 県東7/20(日) 神栖市文化センター

県南7/25(金)中C・高BC 26(土)中B

7/27(日)中A 大昭ホール龍ヶ崎

県西7/26(土)中AC・高BC 27(日)中B

坂東市民音楽ホール「ベルフォーレ」

県北7/19(土)中AC・高BC 20(日)中B

常陸太田市民交流センター

中央7/26(土)中B 27(日)中AC・高BC

ひたちなか市文化会館

千葉県 7/19(土)中Jr・高Jr 20(日)21(祝・月)小・S

7/22(火)～28(月)中B

7/29(火)～7/31(木)中A

8/1(金)2(土)高A 6(水)中B本選

8/7(木)高B本選 8(金)中A本選

8/9(土)高A本選 千葉県文化会館

8/3(日)大・職一 君津市民文化ホール

7/25(金)～27(日)高B予選

青葉の森公園芸術文化ホール

神奈川県 7/26(土)小 相模女子大学グリーンホール

8/8(金)9(土)中A 10(日)大・職一

8/11(祝・月)高A 12(火)中B 13(水)高B

川崎市スポーツ・文化総合センター

地区大会 横浜7/24(木)高A 25(金)～27(日)中A

川崎市スポーツ・文化総合センター

7/27(日)28(月)高B

7/29(火)～31(木)中B

横浜みなとみらいホール

川崎7/28(月)中B 29(火)中A 30(水)高

川崎市スポーツ・文化総合センター

相模原7/26(土)中A・高B 27(日)中B・高A

相模女子大学グリーンホール

県南7/26(土)中A・高 27(日)中B

横須賀市文化会館

県央7/24(木)中A 25(金)中B 26(土)高

厚木市文化会館

西湘7/23(水)高 24(木)中B

7/25(金)中AB 南足柄市文化会館

湘南7/24(木)高A 25(金)中A 26(土)

中B・高B 茅ヶ崎市民文化会館

東関東支部

9/6(土)高A 7(日)中A カルッツかわさき

9/13(土)高B 14(日)小 宇都宮市文化会館

9/20(土)中B 21(日)大・職一 水戸市民会館

●西関東支部●

新潟県 7/26(土)中A 27(日)中A・職一
上越文化会館

7/30(水)高B 31(木)高AB

南魚沼市民会館

8/5(火)中B

8/6(水)小・中A代選・高B代選・大

りゅうとぴあ 新潟市民芸術文化会館

上越7/20(日)中B 上越文化会館

中越7/19(土)20(日)中B 長岡市立劇場

下越7/19(土)20(日)中B 新潟テルサ

群馬県 8/1(金)小・高A 2(土)中B・職一 3(日)

中A・大 4(月)高B

群馬音楽センター

地区大会 中部7/26(土)中B 群馬音楽センター

西部7/27(日)中B 群馬音楽センター

東部7/21(祝・月)中B

メガネのイタガキ文化ホール伊勢崎

山梨県 7/12(土)中AC・高AC 13(日)高B・職一

7/19(土)中B・大 20(日)小・中B

YCC県民文化ホール (山梨県立県民文化
ホール)

埼玉県 7/27(日)大・職一 8/7(木)高B 8(金)中A

8/9(土)中B 10(日)高A

さいたま市文化センター

8/3(日)小 所沢市民文化センター

地区大会 東部8/2(土)3(日)中BC 4(月)中AD

羽生市産業文化ホール

西部8/1(金)中A 2(土)中B

8/4(月)中BD 5(火)中BC

所沢市民文化センター

南部7/31(木)中A 8/2(土)中BCD

8/3(日)中B さいたま市文化センター

北部7/30(水)中AD 31(木)中BC

8/1(金)中B 鴻巣市文化センター

中央7/29(火)中A 30(水)8/1(金)中BD

さいたま市文化センター

高校 7/26(土)高D 8/5(火)6(水)高A

さいたま市文化センター

7/29(火)～31(木)高BC

所沢市民文化センター

大・職一8/3(日) 所沢市民文化センター

西関東支部

9/6(土)中A 7(日)高A

YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

9/13(土)中B 14(日)小・高B 28(日)大・職一

りゅうとぴあ 新潟市民芸術文化会館

●東京都支部●

都・中学校 7/30(水)31(木)中B 練馬文化センター

8/4(月)～9(土)中AB 府中の森芸術劇場

都・高等学校 8/10(日)～15(金) 府中の森芸術劇場

都・大学 8/16(土) 府中の森芸術劇場

都・職場 8/2(土)3(日) 西新井文化ホール

都・一般 8/2(土)3(日) 西新井文化ホール

東京都支部

9/20(土)中・職一 21(日)小・高・大

府中の森芸術劇場どりーむホール

●東海支部●

愛知県 8/2(土)3(日)高 5(火)6(水)中A 7(木)中B 9(土)高代選 豊田市民文化会館
8/3(日)大・職一 幸田町民会館

地区大会 **東三河**7/23(水)中B 24(木)中A
7/26(土)高 豊川市民文化会館
西三河北7/24(木)中A 25(金)中B
7/26(土)高 豊田市民文化会館
西三河南7/21(祝・月)高
にしん文化会館茶々とホール
7/25(金)中AB 西尾市文化会館
名古屋7/28(月)29(火)高 30(水)中AB
Nitterra日本特殊陶業市民会館
知多7/25(金)高 滝上工業雁宿ホール
7/26(土)中A 27(日)中B
常滑市民文化会館
東尾張7/20(日)高 24(木)中A
7/25(金)中B 瀬戸市文化センター
西尾張7/21(祝・月)高 24(木)中A
7/25(金)中AB
名古屋文理大学文化フォーラム

三重県 7/26(土)27(日)中BC 8/2(土)高BC
8/3(日)小・中A・職一 5(火)高S
8/11(祝・月)高A・大 三重県文化会館

岐阜県 8/7(木)中B・高B 8(金)中A・高A
8/10(日)小・大・一般
不二羽島文化センター

地区大会 **岐阜西部**7/25(金)高 27(日)中AC
不二羽島文化センター
美濃飛騨7/27(日)中B 高山市民文化会館
可茂東濃7/23(水)中B
可見市文化創造センター
岐阜西濃7/26(土)中B
不二羽島文化センター
岐阜東部7/24(木)高
可見市文化創造センター
7/27(日)中AC 高山市民文化会館

長野県 7/20(日)大・職一・自由演奏
岡谷市文化会館カノラホール
7/26(土)27(日)小 キッセイ文化ホール
8/6(水)7(木)中 8(金)高A 9(土)高B
ホクト文化ホール

地区大会 **北信A**7/26(土)中
須坂市文化会館メセナホール
北信B7/19(土)中 ホクト文化ホール
東信7/19(土)中A 20(日)中B
上田市丸子文化会館セレスホール
中信7/20(日)中B 21(祝・月)中A
キッセイ文化ホール
南信A7/20(日)中 長野県伊那文化会館
南信B7/19(土)中 飯田文化会館
東北信8/2(土)高A ホクト文化ホール
中南信8/2(土)高A 長野県伊那文化会館

静岡県 7/20(日)大・職一
静岡市清水文化会館マリナート
8/9(土)中A 10(日)中BC
富士市文化会館ロゼシアター
8/9(土)高B 10(日)高A アクトシティ浜松

地区大会 **東部**8/2(土)高 3(日)中A 4(月)中BC
8/5(火)中B
富士市文化会館ロゼシアター
中部7/25(金)～27(日)中 7/31(木)高

焼津文化会館

西部7/25(金)～27(日)中
浜松市浜北文化センター
8/2(土)高A 3(日)高B
アクトシティ浜松

東海支部

8/23(土)中A 24(日)高A アクトシティ浜松
8/24(日)中B・高B ホクト文化ホール
9/7(日)大・職一 不二羽島文化センター

●北陸支部●

福井県 7/25(金)～27(日)
福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい

石川県 7/19(土)小・中B・フリー
7/20(日)中A・職一 21(祝・月)高・大
金沢歌劇座

富山県 7/19(土)小・中B 20(日)中B・大
7/26(土)高 27(日)中A・職一
新川文化ホール

北陸支部

8/9(土)小・中B・大 10(日)中A・職一
8/11(祝・月)高 金沢歌劇座 ¥2,000

●関西支部●

大阪府 8/7(木)中小編成・高小編成 8(金)中A
8/9(土)高A 10(日)小・大・職一
堺市民芸術文化ホール

地区大会 **北摂**7/30(水)～8/2(土)
豊中市立文化芸術センター
北7/23(水)～26(土) 大東市立総合文化センター
中7/26(土)27(日)29(火)30(水)
八尾市文化会館
南7/28(月)～31(木) 堺市民芸術文化ホール

京都府 8/1(金)高B・高小編成 2(土)小・中小編成
8/3(日)中小編成・職一 4(月)中B
8/5(火)6(水)中A 7(木)高A
8/8(金)高A・大 京都コンサートホール

兵庫県 8/9(土)中S・高S 10(日)大・職一
郷の音ホール
8/11(祝・月)中A 12(火)高A
アクリエひめじ

地区大会 **東阪神**7/26(土)中S・高AS 27(日)中A
川西キセラホール
西阪神7/20(日)中S・高S 郷の音ホール
7/26(土)中A 27(日)中A・高A
アミティ・ペイコムホール
神戸7/26(土)～28(月) 神戸文化ホール
東播7/25(金)高AS 26(土)中A
7/27(日)中S 三木市文化会館
西播7/30(水)中A・高S 31(木)中S・高A
アクリエひめじ
但馬7/27(日) 豊岡市民会館
淡路7/27(日) 淡路市立しづかホール

滋賀県 8/3(日)小・中小編成・大・職一 4(月)中A
8/5(火)高A・高小編成
守山市民ホール

地区大会 **中部**7/23(水)中小編成・高AB
7/24(木)中AB・高小編成
守山市民ホール

南部7/25(金)中小編成・高AB
7/26(土)中AB・高小編成
守山市民ホール

北部7/23(水)中AB・高
7/24(木)中小編成
ひこね市文化プラザ

奈良県 8/5(火)小・中A・高J 6(水)中A 8(金)
中J・高A・大 9(土)中小編成
8/10(日)高小編成・職一 奈良県橿原文化会館
和歌山県 8/2(土)中 3(日)高・大・職一
和歌山県民文化会館

関西支部

8/23(土)中小編成・大 24(日)高小編成・職一
京都コンサートホール
8/30(土)中A 31(日)高A
フェニーチェ堺 ¥2,000

●中国支部●

広島県 7/30(水)～8/2(土)中小編成・中A
8/7(木)～10(日)小・中編成・中A代選・高
小編成・高A・大・職一
広島文化学園HBGホール
8/3(日)4(月)中小編成・中A・中フェスティ
バル部門・高
ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ
岡山県 8/1(金)中B・高B マービーふれあいセンター
8/7(木)中小編成・高小編成 8(金)中A
8/9(土)高A 10(日)大・職一
倉敷市民会館
地区大会 中A予選7/22(火)～25(金)
中小編成予選7/28(月)29(火)
マービーふれあいセンター
高小編成予選8/2(土)
高A予選8/3(日)4(月)
マービーふれあいセンター

山口県 7/26(土)中小編成 27(日)中A
7/28(月)中B 下関市民会館
8/1(金)高B・高小編成 2(土)高A
8/3(日)小・大・職一 山口市民会館

鳥取県 8/9(土)中小編成
8/10(日)小・中AB・大・職一
8/11(祝・月)高
エースバック未来中心

島根県 8/1(金)中フリー・中小編成
8/2(土)小・高フリー・高小編成 3(日)高A
島根県民会館
8/9(土)中A 10(日)中A・大・職一
出雲市民会館

中国支部

8/22(金)中小編成・高小編成 23(土)中
8/24(日)小・大・職一 25(月)高
周南市文化会館 S席¥2,000 A席¥1,500

●四国支部●

香川県 8/7(木)高AC 8(金)中AC
8/9(土)小・中A・高B・大 10(日)中B・職一
ハイスタッフホール(観音寺市民会館)
高知県 8/2(土)小・高 3(日)中A・大・職一
8/4(月)中B
高知県立県民文化ホール

愛媛県 8/1(金)中A 2(土)中AB 3(日)中B・大
8/4(月)職一 5(火)小・高AB
松山市民会館

徳島県 8/1(金)高 2(土)中B 3(日)中A・大・職一
ハイスタッフホール(観音寺市民会館)

四国支部

8/22(金)中B・高B 23(土)中A・大
8/24(日)高A・職一
高知県立県民文化ホール ¥1,500

●九州支部●

福岡県 7/12(土)大 13(日)職一
イイヅカコスモスコモン
8/10(日)中 11(祝・月)小・高
福岡サンパレスホテル&ホール

地区大会 北九州7/30(水)高 31(木)中
黒崎びびしんホール

筑豊7/26(土)中 27(日)高
イイヅカコスモスコモン

福岡8/2(土)3(日)高 4(月)5(火)中
福岡サンパレスホテル&ホール

筑前7/30(水)31(木)中
福岡サンパレスホテル&ホール

福岡7/28(月)29(火)中
福岡サンパレスホテル&ホール

筑後7/31(木)8/1(金)中
久留米シティプラザ

佐賀県 7/24(木)高A 25(金)中B 26(土)中A
7/27(日)中A・高B・大・職一
佐賀市文化会館

長崎県 7/19(土)高・大 20(日)高
アルカスSASEBO
8/3(日)中・職一 長崎ブリックホール

地区大会 県南7/26(土)中 諫早文化会館
県央7/27(日)中 諫早文化会館

熊本県 県北7/27(日)中 アルカスSASEBO
7/6(日)大・職一 23(水)24(木)高A
7/25(金)中B 26(土)27(日)中A
7/29(火)小・高代選 30(水)中代選
熊本県立劇場

鹿児島県 7/25(金)高A 26(土)小
7/27(日)高B・大・職一 28(月)中B
7/29(火)～31(木)中A
川商ホール(鹿児島市民文化ホール)

宮崎県 7/19(土)小・中A 20(日)中A
7/21(祝・月)中AB 26(土)中代選・高A・大
7/27(日)高AB・職一 宮崎市民文化ホール

大分県 7/24(木)高 25(金)中・高小編成
7/26(土)中 27(日)中小編成・大・職一
iichiko総合文化センター

沖縄県 7/22(火)高 23(水)～25(金)中A
7/26(土)小・中A代選 27(日)中B・大・職一
沖縄コンベンションセンター

九州支部

8/23(土)中 24(日)高
福岡サンパレスホテル&ホール
[指定席] ¥3,000 [自由席] ¥2,000

8/30(土)大 31(日)職一
川商ホール(鹿児島市民文化ホール)
[自由席] ¥2,000

2025年度マーチングコンテスト 《日程予定表》

北見地区	9/7(日)	遠軽町総合体育館	北陸支部	9/14(日)	氷見市ふれあいスポーツセンター(富山)
北海道支部	9/27(土)	苫小牧市総合体育館			
宮城県	9/15(祝・月)	仙台市新田東総合運動場宮城野体育館	大阪府	9/7(日)	Asueアリーナ大阪
岩手県	9/13(土)	※録画審査	京都府	9/7(日)	京都府立山城総合運動公園 太陽が丘体育館
青森県	9/21(日)	黒石市立中郷中学校	兵庫県	9/7(日)	グリーンアリーナ神戸
秋田県	9/14(日)	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ	滋賀県	9/7(日)	滋賀県立文化産業交流会館
山形県	9/13(土)	山形県総合運動公園	和歌山県	9/7(日)	片男波公園 健康館
福島県	9/14(日)	福島県宮あづま総合体育館	関西支部	9/23(祝・火)	Asueアリーナ大阪
東北支部	10/5(日)	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ			
栃木県	8/28(木)	栃木県立県南体育館	広島県	9/21(日)	広島サンブラザ
茨城県	8/24(日)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	岡山県	9/14(日)	笠岡総合体育館
千葉県	8/19(火)	幕張メッセ イベントホール	山口県	9/23(祝・火)	やまぐちリフレッシュパーク
神奈川県	8/24(日)	小田原アリーナ	鳥取県	9/23(祝・火)	鳥取県立米子産業体育館
関東東支部	10/5(日)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	島根県	9/21(日)	島根県立浜山体育館
			中国支部	10/5(日)	広島サンブラザ
新潟県	8/20(水)	三和体育館	香川県	9/7(日)	観音寺市立総合体育館
群馬県	8/20(水)	ALSOKぐんま総合スポーツセンター	高知県	9/7(日)	春野総合運動公園体育館
山梨県	8/18(月)	会場未定	愛媛県	9/6(土)	西条市総合体育館
埼玉県	8/23(土)	春日部市総合体育館	徳島県	8/30(土)	とくぎんトモニアリーナ(徳島市立体育館)
西関東支部	10/5(日)	ALSOKぐんま総合スポーツセンター	四国支部	10/13(祝・月)	西条市総合体育館(愛媛)
東京都支部	8/30(土)	エスフォルタアリーナ八王子	福岡県	6/15(日)	福岡国際センター
			佐賀県	9/23(祝・火)	吉野ヶ里町文化体育館
愛知県	9/15(祝・月)	ポートメッセなごや第1展示館	長崎県	9/6(土)	島原復興アリーナ
三重県	9/27(土)	三重交通G スポーツの杜 県営体育館	熊本県	9/21(日)	菊池市総合体育館
岐阜県	9/20(土)	下呂交流会館アクティブ(温アリーナ)	鹿児島県	9/14(日)	西原商会アリーナ
長野県	10/4(土)	長野市ビッグハット	宮崎県	9/15(祝・月)	小林市市民体育館
静岡県	9/23(祝・火)	浜松アリーナ	大分県	9/6(土)	豊後大野市大原総合体育館
東海支部	10/11(土)	長野市ビッグハット	沖縄県	9/14(日)	沖縄コンベンションセンター
			九州支部	10/11(土)中 12(日)高校以上	福岡国際センター

2025年度小学生バンドフェスティバル 《日程予定表》

●北海道支部●			帯広地区	8/3(日)	帯広市民文化ホール 〔ステージ部門〕
函館地区	7/26(土)27(日)	函館市民会館	北海道支部	9/28(日)	苫小牧市民会館 〔ステージ部門〕
空知地区	8/2(土)	岩見沢市民会館		9/27(土)	苫小牧市総合体育館 〔フロア部門〕
旭川地区	8/3(日)	旭川市民文化会館			
北見地区	9/7(日)	遠軽町芸術文化交流プラザ (メトロプラザ) 〔ステージ部門〕			
	9/7(日)	遠軽町総合体育館 〔フロア部門〕	●東北支部●		
釧路地区	7/27(日)	コーチャンフォー釧路文化ホール 〔ステージ部門〕	宮城県	8/3(日)	仙台銀行ホールイズミティ21 〔ステージ部門〕
				9/15(祝・月)	仙台市新田東総合運動場宮城野体育館 〔フロア部門〕

岩手県	7/27(日)	トーサイクラシックホール岩手 (岩手県民会館) 〔ステージ部門〕	山梨県	7/20(日)	YCC県民文化ホール (山梨県立県民文化ホール) 〔ステージ部門〕
	9/13(土)	※録画審査 〔フロア部門〕	埼玉県	8/3(日)	所沢市民文化センター 〔ステージ部門〕
青森県	7/27(日)	リンクステーションホール青森 〔ステージ部門〕		8/23(土)	春日部市総合体育館 〔フロア部門〕
	9/21(日)	黒石市立中郷中学校 〔フロア部門〕	西関東支部	9/14(日)	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 〔ステージ部門〕
秋田県	7/20(日)	あきた芸術劇場ミルハス 〔ステージ部門〕		10/5(日)	ALSOKぐんま総合スポーツセンター 〔フロア部門〕
	9/14(日)	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ 〔フロア部門〕	●東京都支部●		
山形県	8/2(土)	やまぎん県民ホール 〔ステージ部門〕	東京都支部	9/21(日)	府中の森芸術劇場どりーむホール 〔ステージ部門〕
	9/13(土)	山形県総合運動公園 〔フロア部門〕		8/30(土)	エスフォルタアリーナ八王子 〔フロア部門〕
福島県	7/26(土)	いわき芸術文化交流館 〔ステージ部門〕	●東海支部●		
	9/14(日)	福島県営あづま総合体育館 〔フロア部門〕	愛知県	8/7(木)	豊田市民文化会館
東北支部	9/6(土)	リンクステーションホール青森 〔ステージ部門〕	岐阜県	8/10(日)	不二羽鳥文化センター 〔ステージ部門〕
	10/5(日)	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ (秋田) 〔フロア部門〕		9/20(土)	下呂交流会館アクティブ (温アリーナ) 〔フロア部門〕
●東関東支部●			長野県	7/26(土)27(日)	キッセイ文化ホール 〔ステージ部門〕
栃木県	8/10(日)	宇都宮市文化会館 〔ステージ部門〕		10/4(土)	長野市ビッグハット 〔フロア部門〕
	8/28(木)	栃木県立県南体育館 〔フロア部門〕	静岡県	8/6(水)	※録音審査 〔ステージ部門〕
茨城県	8/9(土)	水戸市民会館 〔ステージ部門〕		9/23(祝・火)	浜松アリーナ 〔フロア部門〕
	8/24(日)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館 〔フロア部門〕	東海支部	9/6(土)	不二羽鳥文化センター(岐阜) 〔ステージ部門〕
千葉県	7/20(日)21(祝・月)	千葉県文化会館 〔ステージ部門〕		10/11(土)	長野市ビッグハット 〔フロア部門〕
	8/19(火)	幕張メッセイベントホール 〔フロア部門〕	●北陸支部●		
神奈川県	7/26(土)	相模女子大学グリーンホール 〔ステージ部門〕	石川県	7/19(土)	金沢歌劇座 〔ステージ部門〕
	8/24(日)	小田原アリーナ 〔フロア部門〕	北陸支部	8/9(土)	金沢歌劇座 〔ステージ部門〕
東関東支部	9/14(日)	宇都宮市文化会館 〔ステージ部門〕		9/14(日)	氷見市ふれあいスポーツセンター(富山) 〔フロア部門〕
	10/5(日)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館 〔フロア部門〕	●関西支部●		
●西関東支部●			大阪府	8/10(日)	堺市民芸術文化ホール 〔ステージ部門〕
新潟県	8/6(水)	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 〔ステージ部門〕		9/7(日)	Asueアリーナ大阪 〔フロア部門〕
	8/20(水)	三和体育館 〔フロア部門〕	京都府	8/2(土)	京都コンサートホール 〔ステージ部門〕
群馬県	8/1(金)	群馬音楽センター 〔ステージ部門〕	兵庫県	7/28(月)	神戸文化ホール 〔ステージ部門〕
	8/20(水)	ALSOKぐんま総合スポーツセンター 〔フロア部門〕		9/7(日)	グリーンアリーナ神戸 〔フロア部門〕
			滋賀県	8/3(日)	守山市民ホール 〔ステージ部門〕

奈良県 8/5(火) 橿原文化会館
〔ステージ部門〕
関西支部 8/23(土) 京都コンサートホール
〔ステージ部門〕
9/23(祝・火) Asueアリーナ大阪
〔フロア部門〕

●中国支部●

広島県 8/10(日) 広島文化学園HBGホール
〔ステージ部門〕
9/21(日) 広島サンプラザ
〔フロア部門〕
岡山県 8/10(日) 倉敷市民会館
〔ステージ部門〕
9/14(日) 笠岡総合体育館
〔フロア部門〕
山口県 8/3(日) 山口市民会館
〔ステージ部門〕
9/23(祝・火) やまぐちリフレッシュパーク
〔フロア部門〕
鳥取県 8/10(日) エースバック未来中心
〔ステージ部門〕
9/23(祝・火) 鳥取県立米子産業体育館
〔フロア部門〕
島根県 8/2(土) 島根県民会館
〔ステージ部門〕
9/21(日) 島根県立浜山体育館
〔フロア部門〕
中国支部 8/24(日) 周南市文化会館(山口)
〔ステージ部門〕
10/5(日) 広島サンプラザ
〔フロア部門〕

●四国支部●

香川県 8/9(土) ハイスタッフホール
(観音寺市民会館)
〔ステージ部門〕
9/7(日) 観音寺市立総合体育館
〔フロア部門〕
高知県 8/2(土) 高知県立県民文化ホール
〔ステージ部門〕
9/7(日) 春野総合運動公園体育館
〔フロア部門〕
愛媛県 8/5(火) 松山市民会館
〔ステージ部門〕
9/6(土) 西条市総合体育館
〔フロア部門〕

徳島県 8/1(金) ハイスタッフホール
(観音寺市民会館)
〔ステージ部門〕
8/30(土) とくぎんトモニアリーナ
(徳島市立体育館)
〔フロア部門〕

四国支部 8/22(金) 高知県立県民文化ホール
〔ステージ部門〕
10/13(祝・月) 西条市総合体育館(愛媛)
〔フロア部門〕

●九州支部●

福岡県 8/11(祝・月) 福岡サンパレスホテル&ホール
〔ステージ部門〕
6/15(日) 福岡国際センター
〔フロア部門〕
佐賀県 7/26(土) 佐賀市文化会館
〔ステージ部門〕
9/23(祝・火) 吉野ヶ里町文化体育館
〔フロア部門〕
長崎県 7/26(土) 諫早文化会館
〔ステージ部門〕
9/6(土) 島原復興アリーナ
〔フロア部門〕
熊本県 7/29(火) 熊本県立劇場
〔ステージ部門〕
9/21(日) 菊池市総合体育館
〔フロア部門〕
鹿児島県 7/26(土) 川商ホール
(鹿児島市民文化ホール)
〔ステージ部門〕
9/14(日) 西原商会アリーナ
〔フロア部門〕
宮崎県 7/19(土) 宮崎市民文化ホール
〔ステージ部門〕
9/15(祝・月) 小林市市民体育館
〔フロア部門〕
大分県 7/27(日) iichiko総合文化センター
〔ステージ部門〕
9/6(土) 豊後大野市大原総合体育館
〔フロア部門〕
沖縄県 7/26(土) 沖縄コンベンションセンター
〔ステージ部門〕
9/14(日) 沖縄コンベンションセンター
〔フロア部門〕
九州支部 8/22(金) 福岡サンパレスホテル&ホール
〔ステージ部門〕
10/11(土) 福岡国際センター
〔フロア部門〕

第73回 全日本吹奏楽コンクール

主催 全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社

主管 東関東吹奏楽連盟 **担当** 栃木県吹奏楽連盟
(中学生、高等学校)

主管 西関東吹奏楽連盟 **担当** 新潟県吹奏楽連盟
(大学、職場・一般)

中学生、高等学校

日時 10月18日(土) 9:00(予定) 中学生前半の部
14:30(予定) 中学生後半の部
10月19日(日) 9:00(予定) 高等学校前半の部
14:30(予定) 高等学校後半の部

会場 宇都宮市文化会館
(栃木県宇都宮市明保野町7-66)

審査員 交渉中

出演団体 中学生30団体、高等学校30団体

出演順

(中学生前半の部 第1ブロック1~8番、第2ブロック9~15番)

1 東京都 A	2 中国 A	3 中国 B
4 西関東 A	5 関西 A	6 北陸 A
7 東海 A	8 東北 A	9 東海 B
10 四国 A	11 九州 A	12 北海道 A
13 東関東 A	14 関西 B	15 九州 B

(中学生後半の部 第1ブロック1~8番、第2ブロック9~15番)

1 東北 B	2 東北 C	3 東京都 B
4 関西 C	5 中国 C	6 北陸 B
7 東関東 B	8 東海 C	9 関西 D
10 東関東 C	11 四国 B	12 北海道 B
13 九州 C	14 九州 D	15 西関東 B

(高等学校前半の部 第1ブロック1~8番、第2ブロック9~15番)

1 西関東 A	2 東京都 A	3 中国 A
4 四国 A	5 西関東 B	6 東海 A
7 九州 A	8 東北 A	9 東関東 A
10 関西 A	11 東北 B	12 北海道 A
13 東海 B	14 北陸 A	15 九州 B

(高等学校後半の部 第1ブロック1~8番、第2ブロック9~15番)

1 九州 C	2 四国 B	3 東関東 B
4 北陸 B	5 西関東 C	6 九州 D
7 中国 B	8 中国 C	9 関西 B
10 北海道 B	11 東海 C	12 東関東 C
13 東北 C	14 東京都 B	15 関西 C

大学、職場・一般

日時 10月25日(土) 14:50(予定) 大学の部
10月26日(日) 9:30(予定) 職場・一般前半の部
14:00(予定) 職場・一般後半の部

会場 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
(新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2)

審査員 交渉中

出演団体 大学15団体、職場・一般26団体

出演順

(大学の部)

1 東京都 A	2 四国 A	3 東海 A
4 東海 B	5 東京都 B	6 東関東 A
7 関西 A	8 北陸 A	9 九州 A
10 関西 B	11 西関東 A	12 九州 B
13 中国 A	14 北海道 A	15 東北 A

(職場・一般前半の部)

1 九州 A	2 東海 A	3 東関東 A
4 四国 A	5 関西 A	6 北海道 A
7 中国 A	8 九州 B	9 東北 A
10 西関東 A	11 東京都 A	12 北陸 A
13 東北 B		

(職場・一般後半の部)

1 中国 B	2 東関東 B	3 東京都 B
4 東関東 C	5 北陸 B	6 東北 C
7 関西 B	8 四国 B	9 九州 C
10 関西 C	11 北海道 B	12 東海 B
13 西関東 B		

第44回全日本小学生バンド フェスティバル

主催 全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社

【ステージ部門】

主管 西関東吹奏楽連盟 担当 新潟県吹奏楽連盟

日時 10月25日(土) 9:30(予定)

会場 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

審査員 交渉中

出演団体 22団体

出演順

1 東京都 A	2 西関東 A	3 四国 A
4 北海道 A	5 北陸 A	6 東関東 A
7 四国 B	8 北海道 B	9 関西 A
10 東北 A	11 東海 A	12 九州 A
13 東北 B	14 西関東 B	15 中国 A
16 東関東 B	17 関西 B	18 東京都 B
19 中国 B	20 九州 B	21 東海 B
22 北陸 B		

【フロア部門】

主管 関西吹奏楽連盟 担当 大阪府吹奏楽連盟

日時 11月22日(土) 9:30(予定)

会場 大阪城ホール (大阪府中央区大阪城3-1)

審査員 交渉中

出演団体 15団体

出演順

1 四国 A	2 中国 A	3 東北 A
4 九州 A	5 東関東 A	6 北陸 A
7 関西 A	8 北海道 A	9 東京都 A
10 西関東 A	11 北海道 B	12 九州 B
13 東関東 B	14 東北 B	15 東海 A

第38回全日本マーチング コンテスト

主催 全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社

主管 関西吹奏楽連盟 **担当** 大阪府吹奏楽連盟

日時 11月22日(土)

12:50(予定)中学生前半の部

16:10(予定)中学生後半の部

11月23日(日)

10:00(予定)高等学校以上前半の部

14:00(予定)高等学校以上後半の部

会場 大阪城ホール (大阪市中央区大阪城3-1)

審査員 交渉中

出演団体 中学生32団体、高等学校以上36団体

出演順

(中学生前半の部)

1 九州 A	2 関西 A	3 中国 A
4 関西 B	5 東北 A	6 東関東 A
7 東海 A	8 東関東 B	9 九州 B
10 中国 B	11 北陸 A	12 東京都 A
13 四国 A	14 西関東 A	15 北海道 A
16 関西 C		

(中学生後半の部)

1 中国 C	2 九州 C	3 東京都 B
4 東海 B	5 九州 D	6 関西 D
7 関西 E	8 東海 C	9 関西 F
10 西関東 B	11 東関東 C	12 東北 B
13 東関東 D	14 九州 E	15 四国 B
16 西関東 C		

(高等学校以上前半の部)

1 九州 A	2 東海 A	3 中国 A
4 九州 B	5 関西 A	6 東京都 A
7 東北 A	8 四国 A	9 西関東 A
10 東関東 A	11 東海 B	12 西関東 B
13 関西 B	14 東関東 B	15 東海 C
16 関西 C	17 中国 B	18 九州 C

(高等学校以上後半の部)

1 九州 D	2 西関東 C	3 中国 C
4 北陸 A	5 四国 B	6 九州 E
7 四国 C	8 中国 D	9 東関東 C
10 北海道 A	11 関西 D	12 関西 E
13 東海 D	14 東海 E	15 東関東 D
16 九州 F	17 東京都 B	18 東北 B

第49回全日本アンサンブル コンテスト

主催 全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社

主管 中国吹奏楽連盟 **担当** 広島県吹奏楽連盟

日時 2026年3月21日(土)

9:30 (予定) **(中学生、大学の部)**

14:30 (予定) **(高等学校、職場・一般の部)**

会場 広島文化学園HBGホール

(広島県広島市中区加古町3-3)

審査員 交渉中

出演団体 中学生22団体、大学11団体、高等学校
22団体、職場・一般22団体

出演順

(中学生の部)

1 東京都A	2 北海道A	3 東関東A
4 東北A	5 東北B	6 北陸A
7 九州A	8 関西A	9 中国A
10 四国A	11 北海道B	12 東海A
13 東京都B	14 関西B	15 九州B
16 四国B	17 西関東A	18 東関東B
19 中国B	20 東海B	21 西関東B
22 北陸B		

(大学の部)

1 中国A	2 東北A	3 北海道A
4 西関東A	5 東京都A	6 九州A
7 東海A	8 東関東A	9 北陸A
10 関西A	11 四国A	

(高等学校の部)

1 九州A	2 中国A	3 中国B
4 東海A	5 西関東A	6 東京都A
7 東関東A	8 東京都B	9 関西A
10 東北A	11 九州B	12 北海道A
13 東関東B	14 北陸A	15 東北B
16 西関東B	17 北海道B	18 四国A
19 東海B	20 北陸B	21 四国B
22 関西B		

(職場・一般の部)

1 関西A	2 北陸A	3 北陸B
4 中国A	5 四国A	6 九州A
7 東京都A	8 西関東A	9 北海道A
10 四国B	11 東京都B	12 中国B
13 東海A	14 北海道B	15 東北A
16 西関東B	17 関西B	18 東海B
19 九州B	20 東関東A	21 東北B
22 東関東B		

秋季事業の入場券

- ・入場券はすべてチケットぴあでの販売となります。全日吹連事務局での販売はいたしません。
- ・吹奏楽コンクール中学生の部と高等学校の部、マーチングコンテスト高等学校以上の部については、オークション対策として、抽選販売における当選後の指定席券受け取り開始日が**本番の4日前から**となります。また、指定席券をお受け取りになるまで、お席の場所をお知りになることはできません。詳しくは、下記をご確認ください。なお、このチケットは主催者の承諾のない有償譲渡を禁止しております。販売時に入場資格者の氏名・連絡先が確認されます。
- ・吹奏楽コンクール中学生の部と高等学校の部（宇都宮市文化会館）の指定席は、参加団体向けの指定席の販売状況によって、お席が別図「座席表」とは異なる場所になる場合があります。
- ・吹奏楽コンクール中学生の部と高等学校の部は、4ブロック制となります。ブロックごとに入れ替えをし、表彰式は参加団体のみが入場いただけます。
- ・吹奏楽コンクール職場・一般の部、マーチングコンテスト中学生の部、高等学校以上の部は前半・後半に分かれて開催いたします。前半・後半で入れ替えを行います。

●吹奏楽コンクール中学生前半の部・後半の部● 10月18日(土) 宇都宮市文化会館

吹奏楽コンクール中学生の部の入場券は、すべてインターネットでの抽選販売（プレリザーブ）となります。一般席は、すべて指定席となります。

料 金 前半の部（第1ブロック出演順1～8番／第2ブロック出演順9～15番）・後半の部（第1ブロック出演順1～8番／第2ブロック出演順9～15番）それぞれ2,500円（税込）（当選の場合、上記の他に各種手数料がかかります）
表彰式時の入場は参加団体に限らせていただきます。
※一般のお客様は小ホールにてライブビューイングを行います（無料）。

販売方法 各ブロック 約700枚

事前に「チケットぴあ」(<https://t.pia.jp/>)での会員登録（無料）が必要です。決済方法として、①クレジットカード ②atone（後払い）のどちらかを選択していただきます。atoneについては、(<https://t.pia.jp/guide/atobarai.jsp>)をご覧ください。

- ①9月23日（祝・火）午前11時～9月28日（日）午後11時59分の間に、インターネット(<https://w.pia.jp/t/suisougaku>)で希望部門・希望枚数（1人につき各ブロック2枚まで）の申込登録を行ってください（但し、火・水曜の午前2時30分～午前5時30分はメンテナンスのため受付不可）。
- ②9月29日（月）にコンピューターによる抽選を行い、当落結果は午後6時以降、「チケットぴあ」トップページの「抽選申込履歴」から確認が可能です。当選者の申込代金は、当選と同時に決済されます。
- ③指定席券は「セブン-イレブン」もしくは「ファミリーマート」、いずれかを選択の上、お受け取りください。受け取りは、10月14日（火）から大会当日まで可能です。配送はできません。

●吹奏楽コンクール高等学校前半の部・後半の部● 10月19日(日) 宇都宮市文化会館

吹奏楽コンクール高等学校の部の入場券は、すべてインターネットでの抽選販売（プレリザーブ）となります。一般席は、すべて指定席となります。

- 料 金** 前半の部（第1ブロック出演順1～8番／第2ブロック出演順9～15番）・後半の部（第1ブロック出演順1～8番／第2ブロック出演順9～15番）それぞれ2,500円（税込）（当選の場合、上記の他に各種手数料がかかります）
表彰式時の入場は参加団体に限らせていただきます。
※一般のお客様は小ホールにてライブビューイングを行います（無料）。

販売方法 各ブロック 約700枚
事前に「チケットぴあ」(<https://t.pia.jp/>)での会員登録（無料）が必要です。決済方法として、①クレジットカード ②atone（後払い）のどちらかを選択していただきます。atoneについては、(<https://t.pia.jp/guide/atobarai.jsp>)をご覧ください。

- ①9月23日（祝・火）午前11時～9月28日（日）午後11時59分の間に、インターネット(<https://w.pia.jp/t/suisougaku>)で希望部門・希望枚数（1人につき各ブロック2枚まで）の申込登録を行ってください（但し、火・水曜の午前2時30分～午前5時30分はメンテナンスのため受付不可）。
- ②9月29日（月）にコンピューターによる抽選を行い、当落結果は午後6時以降、「チケットぴあ」トップページの「抽選申込履歴」から確認が可能です。当選者の申込代金は、当選と同時に決済されます。
- ③指定席券は「セブン-イレブン」もしくは「ファミリーマート」、いずれかを選択の上、お受け取りください。受け取りは、10月15日（水）から大会当日まで可能です。配送はできません。

●吹奏楽コンクール大学の部● 10月25日(土) りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

●吹奏楽コンクール職場・一般前半の部、後半の部●

10月26日(日) りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

一般席は、すべて指定席となります。

職場・一般の部は、前半の部・後半の部で入替制となります。

- 料 金** 大学の部、職場・一般前半の部、後半の部それぞれ3,000円（税込）
Pコード 大学の部 3 0 4 - 2 3 5
職場・一般の部 3 0 4 - 2 3 6

販売方法

- ・大学の部 2025年9月30日（火）午前10時より（約850枚）
 - ・職場・一般前半の部 2025年9月30日（火）午前10時より（約850枚）
 - ・職場・一般後半の部 2025年9月30日（火）午前10時より（約850枚）
- インターネット（<https://w.pia.jp/t/suisougaku>）および店頭（セブン-イレブン）で販売します。一度に購入できる枚数は、2枚まで。座席の指定はできません。

●マーチングコンテスト高等学校以上前半の部・後半の部● 11月23日(日) 大阪城ホール

マーチングコンテスト高等学校以上の部の入場券は、すべてインターネットでの抽選販売（プレリザーブ）となります。一般席は、すべて指定席となります。

料 金 前半の部（18団体）・後半の部（18団体）それぞれ下記料金となります。
S席 3,000円（税込）・A席 2,500円（税込）（当選の場合、左記の他に各種手数料がかかります）

販売方法 S席 約2,300枚・A席 約4,100枚
※事前に「チケットぴあ」(<https://t.pia.jp/>)での会員登録（無料）が必要です。決済方法として、①クレジットカード ②atone（後払い）のどちらかを選択していただきます。atoneについては、(<https://t.pia.jp/guide/atobarai.jsp>)をご覧ください。

- ①10月10日（金）午前11時～10月16日（木）午後11時59分の間に、インターネット（<https://w.pia.jp/t/marcon>）で希望券種（S席・A席）・希望枚数（1人につきそれぞれ4枚まで）の申込登録を行ってください（但し、火・水曜の午前2時30分～午前5時30分はメンテナンスのため受付不可）。
- ②10月17日（金）にコンピューターによる抽選を行い、当落結果は午後6時以降、「チケットぴあ」トップページの「抽選申込履歴」から確認が可能です。当選者の申込代金は、当選と同時に決済されます。
- ③指定席券は「セブン-イレブン」もしくは「ファミリーマート」、いずれかを選択の上、お受け取りください。受け取りは、11月12日（水）から大会当日まで可能です。配送はできません。

●マーチングコンテスト中学生前半の部・後半の部● 11月22日(土) 大阪城ホール

自由席もチケットぴあでの販売となります。

料 金 前半の部（16団体）・後半の部（16団体）それぞれ下記料金となります。

◆指定席 S席 3,000円（税込）・A席 2,500円（税込）
※正面および向正面の一部が指定席となります。

◇自由席 2,000円（税込）

Pコード 304-239（指定席・自由席共通）

販売方法 ◆指定席

2025年10月18日（土）午前10時より（S席約2,300枚・A席約2,700枚）
インターネット（<https://w.pia.jp/t/marcon/>）および店頭（セブン-イレブン）で販売します。一度に購入できる枚数は、4枚まで。券種は、「S席」「A席」のいずれかのみです。また、座席の指定はできません。

◇自由席

2025年8月31日（日）午前10時より
インターネット（<https://w.pia.jp/t/marcon/>）および店頭（セブン-イレブン）で販売します。一度に購入できる枚数は、12枚までです。

●小学生バンドフェスティバル●

チケットぴあでの販売となります。

【ステージ部門】 10月25日(土)リゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

料 金 1,500円(税込)(全自由席)

Pコード 304-243

販売方法 2025年9月30日(火)午前10時より

インターネット(<https://w.pia.jp/t/shoufes/>) および店頭(セブン-イレブン)で販売します。一度に購入できる枚数は、4枚までです。

【フロア部門】 11月22日(土)大阪城ホール

料 金 1,500円(税込)(全自由席)

Pコード 304-245

販売方法 2025年9月1日(月)午前10時より

インターネット(<https://w.pia.jp/t/shoufes/>) および店頭(セブン-イレブン)で販売します。一度に購入できる枚数は、12枚までです。

- ・インターネットでの購入を希望する場合、事前に「チケットぴあ」の会員登録(無料)が必要です。
 - ・お受け取り方法など、詳しくは「チケットぴあ」ホームページ(<https://t.pia.jp/>)をご覧ください。
- チケットぴあインフォメーション <https://t.pia.jp/help/>

【ご注意(全部門)】

- ・入場券の返券はお断りします。
- ・未就学児の入場はお断りします。

【当日券】

- ・吹奏楽コンクール、小学生バンドフェスティバル・ステージ部門、マーチングコンテスト高等学校以上の部の当日券は販売しません。
- ・小学生バンドフェスティバル・フロア部門、マーチングコンテスト中学生の部では、当日券(自由席、前売と同額)を販売します。

大会に関するお問い合わせ先

全日本吹奏楽連盟事務局 Tel.03-3234-6028 info@ajba.or.jp

●インターネットライブ配信●

吹奏楽コンクール・小学生バンドフェスティバル・マーチングコンテスト全部門の演奏や演技を、インターネットを通じてライブ配信します。スマートフォンやパソコン、タブレットなどで利用できます。チケット販売は連盟とともに大会を主催する朝日新聞社が担当します。

料 金 ※プログラムデータ（PDF）付き

大 会	部 門	金 額
コンクール	中学生の部	前半 3,000 円
	高等学校の部	後半 3,000 円
	大学の部	2,000 円
	職場・一般の部	前半 2,000 円 後半 2,000 円
小学生バンドフェスティバル	ステージ部門	1,000 円
	フロア部門	1,000 円
マーチングコンテスト	中学生の部	2,000 円
	高等学校以上の部	前半 2,000 円 後半 2,000 円

【決済方法】

① クレジットカード ② コンビニ決済 ③ PayPay ④ 携帯電話キャリア決済

※ 購入申し込み時に「朝日 ID」の登録（無料）が必要です。ご登録いただいたメールアドレスに配信視聴ページの URL をお送りいたします。なお、配信後も朝日新聞社から朝日 ID 会員限定のお得なチケット案内などをお届けしますが、配信停止の設定が可能です。

【お申し込み・お問い合わせ】

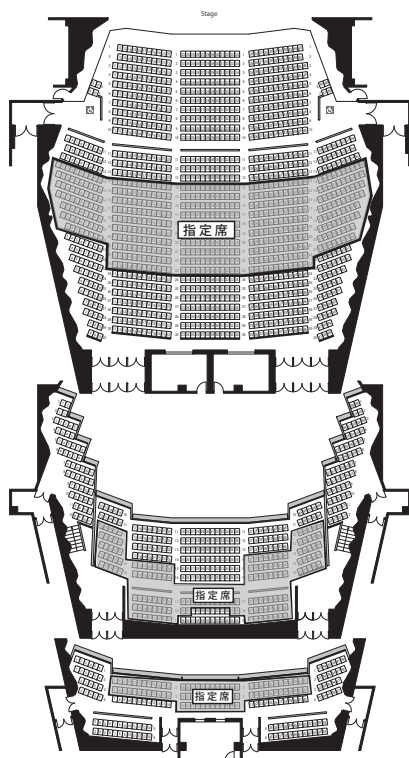
「吹奏楽プラス」(<https://t.asahi.com/wp4q>、吹奏楽ライブ配信情報サイト) から。

【その他】

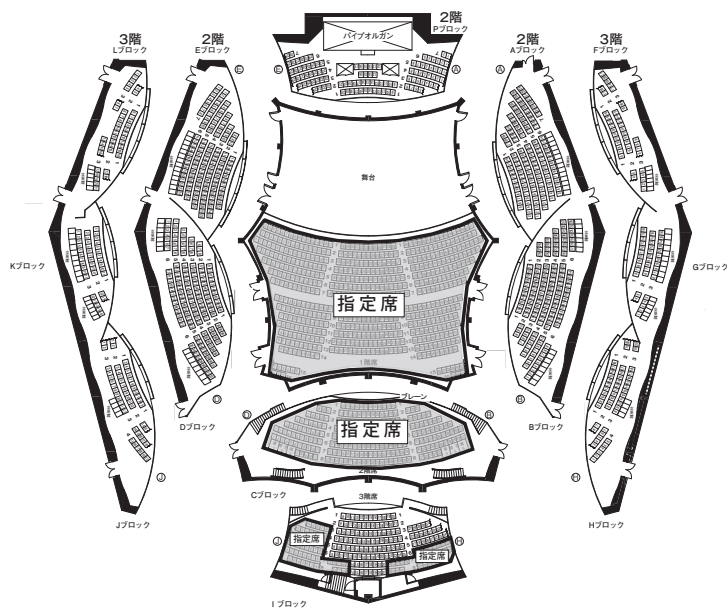
配信はライブ配信のみです。アーカイブ（記録映像）配信はありません。巻き戻しての視聴はできません。

出場団体が配信に同意しない場合や著作権の関係で映像や音声を配信できない場合があります。大会当日までに、各出場団体がどのような配信になるか、全日本吹奏楽連盟ホームページや朝日新聞社特設サイトでお知らせします。

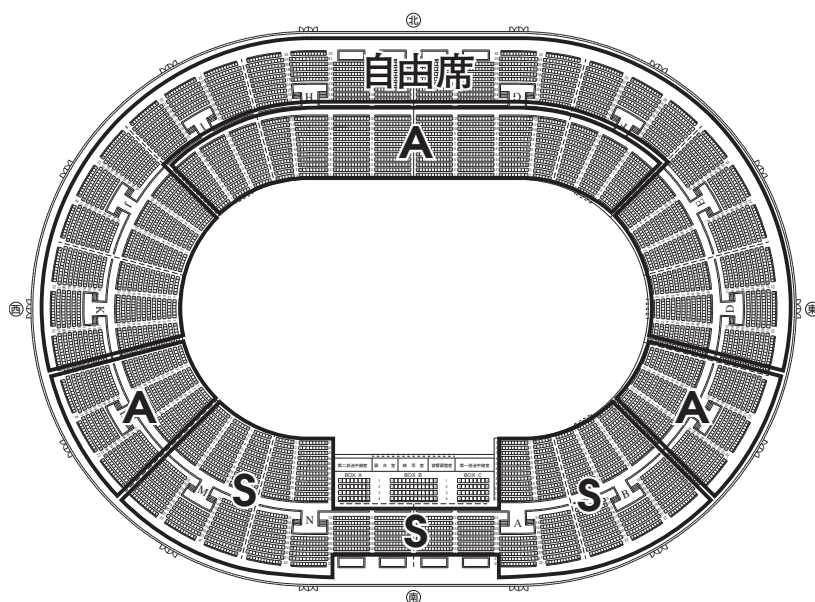
■ 宇都宮市文化会館
(吹奏楽コンクール中学生、高等学校の部)



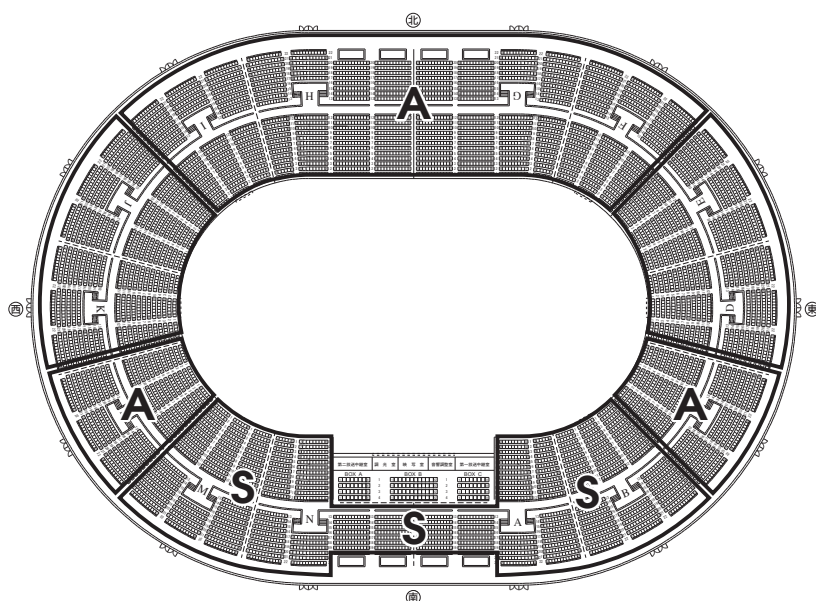
■ りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
(吹奏楽コンクール大学、職場・一般の部)



■ 大阪城ホール
(マーチングコンテスト中学生の部)



■ 大阪城ホール
(マーチングコンテスト高等学校以上の部)



会議報告

理事会

3月19日（水） ホテルフジタ福井

議 事

第1号議案 2025年度事業計画案決定に関する件

鈴木副理事長より上記の件について提案・説明があり、挙手により承認された。

第2号議案 2025年度予算案決定に関する件

竹田財務部長より上記の件について提案・説明があり、挙手により承認された。

第3号議案 2027年度課題曲委嘱作曲家決定に関する件

一瀬開発・振興部長より提案があり、理事による投票の結果、2027年度課題曲は長生 淳氏に委嘱依頼をすることが挙手により承認された。

第4号議案 育児・介護休業規程改定の件

櫻井総務部長より、2025年4月1日から施行の法改正に伴い、上記規程第4条第1項および第5条第1項の改定について提案された。また、法改正の内容を受け「育児のための宿泊付き出張の制限」を新たに第9条として加え、現第9条を第10条（以下、現第10条から第13条まで1条ずつ繰り下げ、繰り下げに伴い新第12条および新第13条第1項の条文内も訂正）とした改定について提案・説明があり、挙手により承認された。

第5号議案 全日本小学生バンドフェスティバル実施規定改定の件

安藤第三事業部長より、上記規定第5条の改定について提案・説明があり、第3項を「同一団体が両部門に出場することを認める。」と訂正する旨、2025年度より実施する旨確認し、挙手により承認された。

協議・報告事項

1. 2025年度事業入札結果について

鈴木副理事長より、2025年度事業における録音・録画業者の入札の結果、課題曲レコーディング及び小学生バンドフェスティバルフロア部門・全日本マーチングコンテストは株式会社日本パルス、全日本吹奏楽コンクール及び小学生バンドフェスティバルステージ部門はブレーン

株式会社、全日本アンサンブルコンテストは株式会社CAFUAレコードに決定した旨報告された。

2. 第一事業部より

星第一事業部長より、コンクール高等学校の部における合同バンドの参加について、2025年度を周知期間とし（実施について総会にて公表のうえ、10月までに実施規定を策定）、2026年度からの実施を予定している旨報告された。なお、併せて加盟団体に関する登録規定も総務部と協議していく旨、地域バンドについては、今後検討を重ねていく旨報告された。

3. 第三事業部より

安藤第三事業部長より、部会において、小学生バンドフェスティバルフロア部門およびマーチングコンテストの審査員数や入場料金について協議した旨報告があり、引き続き検討していく旨報告された。

4. 役員の保険について

河田監事より、社団法人・財団法人のためのマネジメントリスクプロテクション保険について説明があり、加入に向けて検討を進めていく旨確認を行なった。

5. 朝日新聞より

朝日新聞社・上村氏（佐藤実千秋理事代理）より、3月15日の紙面に静岡県掛川市および熊本県熊本市の地域移行の現況について掲載した旨、今後も各地域の情報について取り上げていく旨報告された。

6. その他

(1) 今後の全国大会開催場所

(2) 2025年度年間予定表

(3) チョコレート在庫の活用について

河合事務局長より、チョコレートの在庫について、フードバンクや子供食堂に寄付する等、活用法を検討している旨報告された。

(4) 地域文化芸術活動ワーキンググループについて

理事会

5月8日（木） ウェブ会議

議 事

第1号議案 2027年度外国人委嘱作曲家決定について

一瀬開発・振興部長より、2027年度吹奏楽コンクール課題曲の委嘱について、ロバート・シェルドン氏に依頼する旨提案があり、挙手により承認された。（2027年度課題曲委嘱作曲家は、長生 淳氏、ロバート・シェルドン氏の2名）

第2号議案 新規維持会員加入について

株式会社ビデオアップおよび株式会社アコード／エューツーリストの維持会員への新規加入について提案があり、挙手により承認された。

第3号議案 全日本吹奏楽コンクール実施規定および審査内規改定の件

星第一事業部長より、上記実施規定第7条第1項および審査内規第1条の改定について提案・説明があり、挙手により承認された。また、高等学校の合同バンドについて、今年度の定時総会で説明のうえ2026年度より実施する旨、会報等でも周知していく旨確認を行なった。（P.49参照）

第4号議案 全日本アンサンブルコンテスト実施規定および審査内規改定の件

井田第二事業部長より、上記実施規定第7条第1項および審査内規第1条の改定について提案・説明があり、挙手により承認された。また、高等学校の合同バンドについて、今年度の定時総会で説明のうえ2026年度より実施する旨、会報等でも周知していく旨確認を行なった。（P.49参照）

第5号議案 全日本マーチングコンテスト実施規定および審査内規改定の件

安藤第三事業部長より、上記実施規定第7条第1項および審査内規第1条の改定について提案・説明があり、挙手により承認された。また、高等学校の合同バンドについて、今年度の定時総会で説明のうえ2026年度より実施する旨、会報等でも周知していく旨確認を行なった。（P.49参照）

第6号議案 全日本小学生バンドフェスティバル実施規定および審査内規改定の件

安藤第三事業部長より、上記実施規定第7条第1項および審査内規第1条の改定について提案・説明があり、挙手により承認された。

第7号議案 2024年度事業報告の承認の件

総務・開発について鈴木副理事長より、事業について町田副理事長より提案・説明があり、挙手により承認された。

第8号議案 2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書等の承認の件

竹田財務部長より、2024年度貸借対照表および正味財産増減計算書等について提案・説明があり、挙手により承認された。

第9号議案 2024年度公益目的支出計画実施報告書承認の件

鈴木副理事長より、2024年度公益目的支出計画実施報告書について提案・説明があり、挙手により承認された。

第10号議案 2025年度定時総会招集の件

鈴木副理事長より、2025年度定時総会を5月23日（金）午後4時から、プレミアムホテルTSUBAKI札幌（北海道札幌市豊平区豊平4条1-1-1）にて開催する旨提案があり、挙手により承認された。

第11号議案 役員の補充について

2025年度定時総会終結時をもって朝日新聞社・佐藤実千秋氏が辞任する旨、また理事候補者として朝日新聞社・佐々木健氏を理事会より推薦する旨提案があり、挙手により承認された。

第12号議案 2025年度定時総会議案および報告事項の件

鈴木副理事長より説明・提案があり、2025年度定時総会において下記の件を議案とすることが挙手により承認された。

第1号議案 2024年度貸借対照表、正味財産増減計算書等の承認の件

第2号議案 役員（理事21名、監事1名）選任の件

また、2024年度事業報告・2024年度公益目的

支出計画実施報告書の件・2025年度事業計画および収支予算書の件の3項目について、定時総会の報告事項とすることが挙手により承認された。

第13号議案 2025年度定時総会の招集に関する事項決定の件

総会参考書類に記載すべき事項および正会員が総会を欠席した場合の委任について提案・説明があり、挙手により承認された。

第14号議案 永年勤続表彰の件

各支部・会員連盟より推薦のあった永年勤続の候補者について提案があり、永年勤続として表彰することが挙手により承認された。

第15号議案 正会員承認の件

北見地区・秋田県・茨城県・山梨県・東京都中学校・愛知県・岐阜県・広島県・鳥取県・熊本県・大分県の正会員について、各連盟の代表者の変更に伴う正会員の変更（旧正会員の脱退と新正会員の入会）の通知がなされていたところ、挙手により承認された。

第16号議案 支部・会員連盟への補助金の承認の件

鈴木副理事長より、全日本吹奏楽連盟の理事が役員を兼務している支部・会員連盟への補助金支払いについて提案があり、該当理事を除いた理事により挙手によって承認された。

協議・報告事項

1. 定時総会・協議会に係わる協議、確認事項

定時総会の送付書類について、総会の成立および決議について、定時総会当日の進行や担当について、物故者について説明があり、確認を行なった。

2. 分科会・協議会について

(1) 分科会の担当

鈴木副理事長より、分科会運営委員会を実施した旨報告があり、分科会当日の役割分担や事前アンケートの実施について、参加できない方に向けたYouTube配信の検討について説明された。また、司会者と記録者の事前打ち合わせを実施する旨報告された。

(2) 総会・協議会に関する質問・ご意見について

鈴木副理事長より、各支部より出される質問・意見について、理事に共有のうえ各支部で検討していく旨報告された。

(3) 裁判について

協議会において、弁護士より裁判に関する報告を行なう旨確認された。

3. 審査に関する専門委員会より

町田副理事長より、2024年度大会の審査員に実施したアンケート結果について報告された。また、2026年度までは現在の審査方法を実施のうえ2027年度に新たな方針を提案する旨、審査に関し、今後は三役および各事業部長で検討していく旨報告された。

4. 各部会報告

安藤第三事業部長より、2024年度大会より変更となった内容について検証を行なった旨、今後の課題について報告された。

一瀬開発・振興部長より、朝日作曲賞の公募スケジュールについて、テレビにおける有料配信サービスの許諾と今後の方針について、全日本吹奏楽連盟のホームページ管理者の変更について、大会出場の申込み方法の変更について報告された。

櫻井総務部長より、定款や規定の見直しを今後検討していく旨報告された。

竹田財務部長より、各事業の収支について精査していく旨、各事業部会においても検討してほしい旨報告された。

5. その他

(1) 【D & O】役員賠償責任保険について

上記保険の見積もりやプランについて説明があり、今後、検討のうえ理事会において決議する旨確認を行なった。

(2) 監査報告

河田監事・湯川監事より、今年度の監査報告書について問題がない旨報告された。また、吹奏楽連盟オリジナルグッズの販売方法や管理について、改善の必要がある旨提案された。

理事会

5月23日（金） プレミアホテル-TSUBAKI-札幌

議 事

第1号議案 永年勤続表彰の件

5月8日の理事会にて承認された永年勤続の候補者について訂正があった旨説明のうえ再提案がなされ、永年勤続として表彰することが挙手により承認された。

第2号議案 正会員承認の件

大阪府の正会員について、連盟の代表者の変更に伴う正会員の変更（旧正会員の脱退と新正会員の入会）の通知がなされていたところ、挙手により承認された。

協議事項

1. 分科会運営委員より

鈴木副理事長より説明があり、分科会の担当や位置づけについて確認を行なった。また、分科会参加者以外にも資料を配布する旨、YouTube配信は行わず、希望者には傍聴という形式で参加してもらう旨報告された。

2. 定時総会の進行確認（リハーサル）

櫻井総務部長の進行により、定時総会の流れについて確認を行なった。竹田財務部長より、2024年度決算報告書および2025年度収支予算書の補足説明書p.3（10）経常費用/管理費/役員報酬について「会計に関する細則第19条」を「役員の報酬等及び費用に関する規程」と訂正する旨報告された。

3. 協議会の進め方（回答）等について

鈴木副理事長の進行により、協議会の流れや協議内容について、各支部および会員連盟から出された意見や質問について確認を行なった。また、協議会后、一瀬開発・振興部長より、全日本吹奏楽連盟のホームページ移転に伴い、サーバーを利用している各支部・会員連盟に対し、2027年度末までのサーバー変更について依頼する旨報告された。

4. その他

鈴木副理事長より、定時総会出席者に対し、総会運営に関するアンケートを実施する旨報告された。

町田副理事長より、2024年度コンクール実態調査の結果について、実態調査結果の全日本吹奏楽連盟ホームページへの掲載について報告された。

湯川監事より、文部科学省の予算について説明があり、部活動の地域連携等に使用される予算の現状について報告された。

全日本吹奏楽コンクール実施規定【抜粋】

第7条 ※2026年度より実施

(2) 高等学校の部

高等学校に在籍している生徒とする。(同一経営の学園内の小学生、中学生の参加は認める。)

参加形態は以下のとおりとする。

① 単独校 従来どおりの参加形態。

② 合同バンド

部員不足により、単独の学校単位で本大会に参加できない高等学校が、学校長の許可のもと編成する団体。但し、単独校として本大会に出場する団体は、合同バンドでの参加は認めない。

全日本アンサンブルコンテスト実施規定【抜粋】

第7条 ※2026年度より実施

(2) 高等学校の部

高等学校に在籍している生徒とする。(同一経営の学園内の小学生、中学生の参加は認める。)

参加形態は以下のとおりとする。

① 単独校 従来どおりの参加形態。

② 合同バンド

部員不足により、単独の学校単位で本大会に参加できない高等学校が、学校長の許可のもと編成する団体。但し、単独校として本大会に出場する団体は、合同バンドでの参加は認めない。

全日本マーチングコンテスト実施規定【抜粋】

第7条 ※2026年度より実施

(2) 高等学校以上の部

< 高等学校 >

高等学校に在籍している生徒とする。(同一経営の学園内の小学生、中学生の参加は認める。)

参加形態は以下のとおりとする。

① 単独校 従来どおりの参加形態。

② 合同バンド

部員不足により、単独の学校単位で本大会に参加できない高等学校が、学校長の許可のもと編成する団体。但し、単独校として本大会に出場する団体は、合同バンドでの参加は認めない。

理 事

【総括】石津谷治法（理事長）

【総務担当】鈴木芳夫（副理事長）

【総務部】（諸規定管理、危機管理、
部活動改革、メディア取材・対外担当）

○櫻井和也、松浦孝憲

【財務部】（財務）○竹田大助、安藤繁秋

【開発・振興部】（課題曲関係、広報、
少子化対策、ネット配信事業・業者担当）

○一瀬純司、星 弘敏

【事業担当】町田真左志（副理事長）

【第一事業部・吹奏楽コンクール】

○星 弘敏、田中義啓、土川春生、中澤正人、
八尋清繁

【第二事業部・アンサンブルコンテスト】

○井田重芳、磯部将門、奥 章、佐藤道郎

【第三事業部・小学生バンドフェスティバル、
マーチングコンテスト】

○安藤繁秋、加島貞夫、田中一宏、松浦孝憲、
米田正博

【事業共催・朝日新聞社】○佐々木 健

○…部長（常任理事）

部長以外は50音順

監 事

湯川昌彦、河田好平（弁護士法人キャストグ
ローバル）

お知らせ

2025年度記念バッジデザイン決定

吹奏楽コンクール、小学生バンドフェスティ
バル、マーチングコンテスト、アンサンブルコ
ンテストの各全国大会記念バッジデザイン公募
の結果、応募総数175点の中から下記の作品が
選ばれました。

〔入選〕 大木 みさと （東京都）



すいそうがく
第228号

二〇二五年7月発行

発行所
〒102-0075

全日本吹奏楽連盟事務局
東京都千代田区三番町二四

TEL
03-3234-6028

FAX
03-3234-1005

(振替) 001601814457
印刷所 (株)NHKビジネスクリエイト